

シテ然ルヘシ

二五

司法部刑事第一〇四〇號(大正十三年二月二日)
司法部刑事局長

大 書 院 長
檢 事 總 長
控 訴 院 長
檢 事 長
地 方 裁 判 所 長
檢 事 正

御 中

改正刑事訴訟法ニ關スル疑義回答ノ件通牒

別紙爲御參考差進候也

(別紙)

(前橋地方裁判所長問合)
刑事局長 回答)

改正刑事訴訟法實施ニ關スル疑義竝回答

(一) 問 新刑事訴訟法實施後ニテモ豫審有罪決定ト爲リタル刑事記録ハ豫審掛ヨリ檢事局へ送付スヘキモノナルヤ將豫審掛ヨリ直ニ公判部ニ送付スヘキモノナルヤ

(二) 問 新刑事訴訟法ニハ舊刑事訴訟法第二百四十九條ニ該當スル規定ナキヲ以テ上訴完結ノ後其ノ訴訟記録ヲ原裁判所ニ返還スヘキ場合ニ裁判書ノ謄本ヲ添附スルヲ要セサルヤ若其ノ謄本ノ添附ヲ必要ナリトセハ其ノ作成ハ裁判ノ原本ヲ保存スヘキ上訴裁判所ノ檢事局ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ公判部書記課ニ於テ之ヲ作成スルヲ要セサルモノナルヤ

答 一問二問共總テ舊法ノ下ニ於ケル取扱ト同様ニ處理スヘキモノト思料ス

二六

司法部刑事第一〇四七號(大正十三年二月二日)
司法部刑事局長通牒)

舊法時代ニ於テ發シタル引致命令書ノ效力ニ關スル件

新刑事訴訟法ニ於テ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲勞役場留置ノ執行ヲ爲スニハ刑ノ執行ニ關スル規定ニ準スヘキコト勿論ナレトモ舊法時代ニ於テ勞役場留置ノ執行ヲ爲ス爲發シタル引致命令書ノ如キハ新法實施後ト雖效力ヲ存セシムルコトヲ相當ト認ムルヲ以テ其ノ未執行ノモノニ付テハ該文書ニ依リ執行差支無之儀ト御了承相成度及通牒候也

二七

大阪地方檢事第二一號(大正十三年一月二十五日)
大阪地方裁判所檢事正代理)

司法省刑事局長宛

刑ノ執行ニ關スル疑義ノ件照會

被告人大谷秀太郎ニ對スル私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付大正十二年十月九日大阪

區裁判所ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲シ被告人ヨリ控訴ヲ申立テ當裁判所ニ繫屬中被告人ハ本月二十一日控訴ヲ取下ケ受刑ノ爲任意當檢事局ニ出頭(被告人ハ保釋中)シタルヲ以テ判決抄本ニ基キ懲役十月ノ刑ヲ執行指揮セントシタル處被告人ハ懲役八月ノ言渡ヲ受ケタルモノニシテ懲役十月ノ言渡ハ受ケタルコトナキ旨申立テタルヲ以テ爲念調査シタルニ本件判決書ハ主文及理由共ニ懲役十月ニ處スヘキ旨ノ記載アルモ判決ノ言渡ニ立會シタル檢事カ宣告刑ヲ記帳シ居ル體刑執行指揮簿並ニ判決言渡シノ際出廷シタル大阪刑務所北區支所勤務ノ看守ノ記帳セル處分通知簿ニハ何レモ懲役八月ノ言渡アリタル旨ノ記入アリ執行ニ付疑義ヲ生シタルヲ以テ一時被告人ニ對スル刑ノ執行指揮ヲ見合ハセ更ニ調査ヲ進メタル處判決言渡ノ際立會シタル裁判所書記ノ手控帳ニモ懲役八月ノ言渡アリタル旨ノ記載アリ引續キ精査中本月二十三日第一審係判事ハ主文中懲役十月ニ處ストアルハ懲役八月ノ誤謬ニ付更正スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ其ノ謄本ヲ大阪區裁判所檢事局ニ送達セリ右決定ハ刑事訴訟法ノ認メサルトコロナルモ第一審裁

判所カ言渡シタル刑カ懲役八月ナルコトハ之ヲ認メサルヲ得サル次第ニ有之被告人利益ノ爲假令判決書ニハ懲役十月ト記載サレアルモ右決定ニ基キ八月ノ刑ヲ執行スルヲ妥當ナリト思料致候得共取扱上疑義有之候條至急何分ノ御回示有之度別紙判決書及更正決定各謄本相添へ此段及照會候也(謄本略)

司法省 刑事第一二六七號 (大正十三年二月六日)
刑事局 刑事局長

大阪地方裁判所檢察正宛

刑ノ執行ニ關スル疑義ノ件回答

去月廿五日付祕第二一號照會首題ノ件ハ左記ノ通りニ被致思考候條右ニ御了承相成度候

記

一、判決ハ其ノ言渡ニ依リテ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ若判決言渡ノ刑期ト判決

書記載ノ刑期ト相齟齬シタル場合ニ於テハ常ニ其ノ言渡シタル處ニ從ヒテ其ノ效力ヲ定ムヘキモノトス隨テ本件ニ付テモ其ノ言渡シタル懲役八月ノ刑ヲ執行セラ
ルヘキモノト思考候

追テ刑事訴訟法ニ於テハ民事訴訟法ニ於ケルカ如ク所謂更正決定ナルモノヲ認メ
サルヲ以テ此ノ決定アリタルト否トニ因リ前示ノ理論ニ影響ナキモノト存候

二八

司法省 刑事第一二三八號 (大正十三年二月七日)
刑事局 刑事局長

大 審 院 長
檢 事 總 長
控 訴 院 長
檢 事 長
地 方 裁 判 所 長

官公吏ノ作成スヘキ書式ノ方式ニ關スル件通牒

官吏又ハ公吏ノ作成スヘキ書類ニ刑事訴訟法第七十一條ニ依リ其ノ所屬ノ官公署ヲ表示スルニ付テハ其ノ方法ニ特段ノ制限ナク且舊法ノ如ク別ニ所屬廳印ノ押捺ヲ必要トセサルヲ以テ所屬廳印ヲ押捺セスシテ官公署ノ名稱ノミヲ記載スルニ止ムルモ或ハ單ニ廳印ヲ押捺シテ別ニ官公署ノ名稱ヲ記載セサルモ不可ナルニ非スト雖官公吏ノ作成スヘキ書類ニ所屬廳印ノ押捺アルト否トハ該文書ノ正確ヲ期シ其ノ公信力ヲ保持スルニ付極メテ重要ナル關係アルヲ以テ單ニ内部ノ關係ニノミ止マル書類ニ付テハ格別ナルモ外部ニ對スル書類ニ付テハ叙上ノ趣旨ニ依リ必ス廳印ヲ押捺スル様致度又書類作成者ノ押捺スヘキ印章ニ付テモ右外部ニ對スル書類ニシテ職務上作成スヘキモノニ付テハ職印ヲ使用スル様致度候

二九

發第一一號(大正十三年一月七日)
十勝 刑務所長

司法省刑事局長殿
司法省行刑局長殿

未決勾留期間計算ノ件問合

- (一) 未決勾留期間計算ニ付テハ時効期間ノ如ク例外ノ規定ナキヲ以テ總則ニ於ケル期間ニ關スル通則ヲ適用スヘキモノト解釋致候處客年十二月二十八日刑事局電報ニ依レハ「一月一日ニ始マリ二月末日ヲ以テ完了ス」トアリ右通則ヲ適用セサルカ如ク解セラレ候得共右ハ十二月三十一日ヨリ引續キ勾留セラレタルモノヲ指稱シタルモノトシテ一月一日以後勾留セラレタルモノニハ適用セサルモノトス

(參照) 平沼博士著新刑事訴訟法要論第二四七頁同第二五一頁同第二五三頁

- (二) 勾留期間ハ勾留狀ヲ執行指定ノ監獄ニ引致スル迄他ノ監獄又ハ警察留置場ニ勾

留シタル場合ト雖勾留狀執行ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス
右ノ通解釋致候得共疑義有之候ニ付至急何分ノ御指示相煩度候

大正十三年二月十六日
行丙第三六號(司法省行刑局長)
司法省行刑局長

十勝刑務所長殿

勾留期間計算ノ件回答

一月七日發第一一號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承左記ノ通承知相成度候

- (一) 勾留期間ノ計算ニ付テハ刑事訴訟法第八十一條中時効期間計算ノ例ニ依ルヘキモノトス
- (二) 指定セラレタル刑務所ヘ引致シタル日ヨリ計算スヘキモノトス

三〇

大正十三年二月十六日
司法省行刑局長
司法省行刑局長

刑務所長
少年刑務所長

御 中

改正刑事訴訟法實施ニ付注意事項通牒

改正刑事訴訟法實施ニ伴ヒ客職不取敢急ヲ要スルモノニ付電報並通牒シタル通ナルモ尙左記事項ニ付テハ刑務官吏カ職務上ニ關スル重要ナルモノヲ列記シタルモノナリ更ニ行刑法規トノ關係ニ付テモ充分研鑽ヲ遂ケ遺算ナキヲ期スヘク尙司法官廳ト連絡協調シ法ノ期待ヲ完カラシムル様御考慮相成度候

- (一) 第八條ニ依ル被告事件ノ相牽連スルモノトハ監獄法第十七條ノ規定ニ被告事件ノ相關連スルモノトアルニ包含セラルルモノト解セラルルニ付同條ニ依リ居房ヲ別異シ互ニ接觸スルコトヲ避ケシムル注意ヲ要ス
- 右事件牽連者ノ居房配置其ノ他拘禁ニ關シテハ事件ヲ擔當スル判事又ハ檢事ノ指示ヲ受クルコトヲ要ス

放 釋 日				
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
		何 裁 判 所	何 檢 事 —	何 軍 法 會 議
		—	—	—
		被 告 人	被 告 人	被 告 人
		二 月	二 月	五 日
		—	—	—
		—	—	—
		—	—	—
				月日何裁判所 何事の留置執行 ニ付月日何審記ス 促進前ノ留置期 一月十日美ノ時 日歌二十一日

備考 本簿ニハ刑事訴訟法第百十三條及刑事交渉法第七條第四項ノ勾留期間ノ滿了ノ翌日ニ依リ之ヲ
登録スルモノトス

法定勾留期間及引致官廳名欄ハ之ヲ省略スルモ支障ナシ

(四) 被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁止スル

コトヲ得サルコトニ特ニ注意スヘシ (第四十五條)

被告事件公判ニ付セラレタルトキハ豫審ニ係ルモノハ決定書ヲ被告人ニ交付セラレ

ヘキニ依リ (第二百十二條) 注意スヘク被疑者ニ付テハ檢事ヨリ刑務所ヘ其ノ旨通
知セラレヘシ

(五) 被拘禁者ノ身體及名譽ノ保全ニ注意スヘキ旨第九十二條ニ規定セラレ蓋シ被告人
ノ拘禁ハ素ト訴訟手續進行ノ目的ニ出テタルモノナルカ故ニ審判ノ目的ニ反シ又ハ
設備内ノ紀律ニ背ク所爲アル場合ニ於テハ之ニ懲罰ヲ科スヘキハ勿論ナルモ然サル
限リハ入所前ニ於ケル生活状態ヲ參酌シ其ノ名譽及自由ノ保全ニ努ムルコトヲ要ス
(一四四、二五三、二九六、及三四〇ノニ參照)

本條ノ趣旨ニ依リ第百十二條但書ニ於テ規定スル如ク自辨食ノ差入ヲ禁シ又ハ差押
ヲ爲スコトハ絶對ニ許ササルヲ以テ現行監獄法第六十條懲罰中第七號糧食自辨ノ停
止ニ付テモ所内ノ規律ニ背カサル限リ自然其ノ趣旨ニ則ルヘク尙未決勾留者ニ對ス
ル懲罰ノ種類ニ付テハ大様左記ノ程度ニ於テ處分セララルヲ相當トス

一 叱責

- 二 文書圖書閱讀ノ十五日以内ノ禁止
 - 三 請願作業ノ五日以内ノ停止
 - 四 自辨ニ係ル衣類寢具著用ノ十五日以内ノ停止
- 前項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得
- 尙被疑者ニ對スル取扱ニ付テハ被告人ニ對スル處遇ニ準スヘキハ勿論ナルモ之ヨリ寧ロ寛ナルモ嚴ナラサル様注意スルコトヲ要ス
- (六) 第九十條第三項及第百條第二項ニ依リ刑務所ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ノ執行ニ付テハ第百三條第二項ニ依リ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル刑務所ニ引致スヘキモノニシテ其ノ後ノ處遇ニ付テハ受刑者タル被告人モ亦未決拘禁區ニ於テ他ノ刑事被告人ト分界拘禁シ作業其ノ他ニ付受刑者トシテ處遇ヲ爲スヲ要ス
- (七) 第百十一條ニ依リ勾留又ハ留置セラレタル被告人ハ原則トシテ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スノ自由ヲ有スルモ行刑法令及刑事訴訟法中他ノ條文ニ依リ

- 制限ヲ受クルモノトス而シテ第百十二條ニ依リ裁判所又ハ檢事ハ接見ヲ禁止シ書類物品ヲ檢閲シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ差押ヘ得ルハ唯罪證湮滅又ハ逃亡ヲ圖ル虞アル場合ニ限ルモノニシテ其ノ事由アリヤ否ヤハ刑務所ニ於テ之ヲ確知スルコト能ハサル場合アルヘキヲ以テ能ク裁判所又ハ檢事ト協調ヲ遂ケ其ノ疑アルモノニ就テハ之ヲ檢事ニ通報シテ裁判所又ハ檢事ノ命ヲ俟ツヘク又舊法ト同シク接見禁止當然ノ結果トシテ居房ヲ分離スヘキコトハ自明ノ理ナルヲ以テ明文ヨリ刪除セラレタルモノナルコトヲ承知セラレタシ
- 糧食ニ付テハ紀律ヲ害セサル限リ授受ノ禁止又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス從テ糧食物中證據湮滅ノ事實アリシ場合ハ物自體ノ禁止又ハ差押ヲ爲スコト能ハサルモ差入人ノ出入ヲ禁止シ得ルコトハ監獄法施行規則第九十九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ機宜ノ措置ヲ講スヘキモノトス
- (八) 第百十四條及第百十八條乃至第百二十一條ノ勾留ノ執行停止ニ付テハ當該官ノ指

揮ヲ待チ監獄法第六十五條ニ據ル取扱ヲ爲スヘキモノトス

- (九) 保釋ノ請求者ハ舊法ノ被告人ノミニ止マリタルニ比シ新法第百十五條ハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ニ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人モ其ノ請求權ヲ有シ又保釋請求者以外ノ者ヨリ保證金ヲ受納シ得ルヲ以テ突然釋放ノ命令ニ接スルコトアルヘク從テ多額ノ所持金ヲ有スル者ノ如キハ釋放準備ニ支障ヲ生スルヲ以テ豫メ裁判所トノ諒解ヲ經適當ノ時機ニ豫報ヲ受クル等其ノ準備ニ支障ナカラシムルノ注意ヲ要ス

- (一〇) 舊法ハ豫審免訴等ノ場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ放免ノ言渡ヲ爲スヘキ旨規定セルモ新法ニ於テハ決定主文ニ特ニ放免ノ旨ヲ記載スルヲ要セス第三百十八條ニ依リ免訴、公訴棄却、管轄違ノ言渡アリタルトキハ當然放免ノ言渡アリタルモノトスト雖刑務所ニ於テハ檢事其ノ他勾留執行指揮官ノ命令書ニ依ツテ決スヘキモノトス

第三百七十一條ノ無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキニ於テモ勾留セラレタル被告人ニ付亦同シ

- (二) 第三百五條第一項第二號ニ依リ被告人ニ心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得ヘク又第三百五十二條第一項及第二項ニヨリ被告人心神喪失ノ状態ニアルトキ又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ公判手續ヲ停止スヘキモノナルカ故ニ右事由ノ發生シタル場合ニ於テハ其ノ事由及若釋放セスシテ引續キ勾留スルトキハ豫後ノ見込ヲ具シ速ニ裁判所又ハ豫審判事ニ通報スルヲ要ス

- (三) 第三百九十一條及第三百九十二條ニ依リ勾留セラレタル被告人ノ上訴申立書ハ刑務所長又ハ其ノ代理人ニ申立書ヲ差シ出シタルトキニ於テ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス關係上右申立書ヲ受付タル際ハ左記甲様式ノ上訴簿ヲ備ヘ之ニ左記乙様式ノ通知書ヲ添付シ速ニ原裁判所ニ送付シテ上訴簿受領印欄ニ係員ノ捺印ヲ求ムヘシ

第三百九十一條ニ依リ被告人自ら上訴申立書ヲ作ルコト能ハス代書シタルモノハ本文ヲ被告人ニ讀聞セタル上第七十四條第二項ノ規定ニ基キ代書シタル者ニ於テ其事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

上訴取下又ハ拋棄ノ申立書上訴權回復ノ請求書疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下書ヲ提出スル場合被告人之ヲ作ルコト能ハサルトキハ右ニ準シ取扱フヘシ

(三) 上告裁判所ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ更ニ事實審理ヲ爲スヘキ旨言渡シタルトキハ上告裁判所所在地ノ市谷刑務所ニ被告人ヲ移送スヘク其ノ移送官廳ハ押送規則ニ據ルハ勿論此ノ場合ニハ第四百五十五條及第三百九十八條第二項ニ依リ控訴裁判所ノ檢事ノ移送指揮ニ依ルヘキモノトス

(四) 第四百九十六條及第五百六條第二項ニ依リ再審ノ請求アリト雖檢事ヨリ執行停止ノ指揮アラサルカ又ハ第五百六條第二項ニ依リ執行停止ノ決定アラサル限りハ自由刑ノ執行ヲ停止スルノ效力ヲ有セサルモノトス尙其ノ自由刑ノ執行ヲ停止スル命令

書アリタルトキハ監獄法第六十五條ニ依リ釋放ノ手續ヲ執ルヘキモノトス

(五) 監獄法第一條第一項第四號、第十七條、第二十六條、第三十三條、第三十五條、第三十六條、第六十一條ノ刑事被告人中ニハ被疑者ヲ包含スル義ト承知セラレタシ即チ監獄法ニ所謂刑事被告人ハ起訴前タルト起訴後タルトヲ問ハス刑事處分ノ爲拘禁セラレタル者ヲ指稱スルモノニ付新法ニ於ケル被告人及被疑者ヲ包含スルモノナリト解釋シ得ルヲ以テナリ

(六) 裁判執行ノ全編ハ行刑ノ實體竝手續ヲ規定スル重要ナル部分ナルヲ以テ行刑官吏トシテ之ヲ知悉セサルヘカラサルハ勿論十分研究ヲ要スヘキモノアリ殊ニ刑ノ執行停止ノ如キハ職責上是カ運用ニ付慎重ナル考慮ヲ要ス

第五百四十四條ノ心神喪失ノ狀態ニ在ル者ニ對シテ刑ノ執行ヲ停止スルニハ十分ナル鑑別診斷ヲ經タル上ニ於テ之ヲ爲シ刑ノ執行ヲ停止シタル上ハ受刑者ニ相違ナキモ刑ノ執行ニアラス從テ處遇上ニ付テモ考慮シ分界シタル場所ニ拘禁シテ刑事被告

人ニ對スル處遇ニ準シ取扱フヘキモノトス而シテ之ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ナル場所ニ入レシムルニ付檢事ト協調シテ速ニ處分シ法意ヲ十分ニ貫徹スル様注意スヘシ

第五百四十六條第一號乃至第四號ノ場合ニ付テハ適當ノ保護者アルモノハ道義上及行刑ノ目的ヲ達成スル上ヨリ速ニ刑ノ執行停止ヲ爲スヘシ

同條第五號ノ場合ニ於テハ刑ノ執行停止ヲ爲スカ又ハ此レカ訴訟事件ニシテ一時的又ハ急迫ナル場合ニ於テハ明治三十六年五月監内第一一五九號通牒及大正十二年行甲第八八四號通牒ノ場合ノ外ニ付テモ出所ヲ許シ若他刑務所ニ移送ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ本人ニ於テ自辨セシムヘク自辨シ得サル者ニ對シテハ情狀ニ依リ刑務所ニ於テ移送スルモ妨ケナシ

同條第六號ノ場合ニ於テハ老齡若ハ癡篤疾ニシテ頼ルトココナキ直系尊屬ヲ侍養スルハ我國固有ノ悖風良俗ヲ發揮スル所以ニシテ又一面ニハ父母ノ眞善ナル慈愛ノ至

情ニ靈感シテ心機一轉シ醇正善良ニ復歸スル動機トモナルコト多カルヘキヲ以テ可成之ニ侍養ノ機會ヲ與フヘシ

同條末號ノ其ノ他重大ナル事由アルトキハ前記各號ノ規定ノ適用ニ依リ略盡スヘシト雖尙右ニ準スル重大ナル事由アルトキハ之ヲ補足スル趣旨ニ於テ設ケラレタル規定ニシテ此レカ一例ヲ舉示スレハ本人入所後兩眼ヲ盲シ又ハ不具癡疾トナリ作業不能他人ノ介輔ヲ要シ到底行刑ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ノ如キモノヲ指スモノトス

(七) 刑務所内ニ變死者アリタル場合ニ於ケル檢視ハ第八十二條ノ規定ニ依リ其ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ニ通報シテ之ヲ爲スヘク監獄法施行規則第七十七條第三項ノ規定ハ自然消滅ニ歸シタルモノノ如ク解セラレサルニアラスト雖刑事訴訟法第八十二條ハ司法檢死ニ關スル規定ニシテ明治十三年太政官達第十四號ニ基ク行政檢視ニ付テハ監獄法施行規則第七十七條第三項ノ規定ヲ適用ス

ヘキモノト解スヘク從テ刑務所ニ於テ自殺其ノ他變死者アリタルトキハ其ノ事態ニ
應シ刑事訴訟法第百八十二條第一項ニ依リ檢事ニ通知スヘキヤ監獄法施行規則第百
七十七條第三項ニ依リ警察官署へ通報スヘキヤヲ決定スヘキモノトス
七〇頁(三)參照

三二

行甲第一九八號 (大正十三年二月十八日)
司法省刑務局長
司法省行刑局長

裁判所
檢事局
刑務所

御中

勾留中ノ被疑者ニ對スル呼出ノ形式ニ關スル件

勾留中ノ被疑者ニ對スル呼出ノ形式ニ付テハ刑事訴訟法第八十四條第三項ヲ準用スル

義ト御了知相成度候

三二

秋刑秘發第二號 (大正十三年一月十二日)
秋田刑務所長

司法省行刑局長殿

勅令第五百二十八號ニ依リ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者指定セラ
レ候ニ付テハ同令第三條ニ依レハ監獄又ハ分監ノ長ハ當然司法警察官ノ職務ヲ行フヘ
キモノニ候得共看守長ノ配置ナキ大曲、横手ノ兩分監ニ於ケル支所長心得タル看守部
長ハ同條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ資格ナキモノト思料セラレ候果シテ然ラ
ハ司法警察官ノ職務ヲ行フヘキ者ナキニ司法警察吏ノ職務ヲ行フモノノミヲ任命スル
モ彼是支障少カラス聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示煩シ度候

行丙第五九號 (大正十三年二月十八日)
司法省行刑局長

秋田刑務所長殿

典獄補、看守長ノ配置ナキ刑務支所ニ於ケル司法警察官吏ノ件回答

一月十二日秋刑祕發第二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處此ノ場合ニ於テハ司法警察吏ヲ置ク義ニ有之候其ノ職務ニ付テハ檢事ノ命令ヲ受クルモノナルヲ以テ別段支障無之モノト思料致候

三三三

發第二七四號(大正十三年二月九日)
廣島刑務所長

司法省行刑局長殿

被告人釋放ニ關スル件

被告人ノ勾留期間ハ刑事訴訟法第百十三條ニヨリ二月ニ有之更新決定ナキ限り期間滿了セルトキハ檢事ノ指揮ヲ要セス刑務所ニ於テ直ニ釋放スヘキモノト存候處右ハ滿期ノ日ノ翌日ニ於テ釋放スヘキモノニ候哉何等ノ明文無之ニ付或ハ被告人ヨリ滿期翌日

ノ午前零時以後ニ於テ特ニ釋放ノ要求ヲナストキハ釋放セサルヘカラサルモノモ可有之ト存候得共如何取扱可致乎尙勾留期間ノ計算ニ付テハ同法第八十一條第三項ニ據ルヲ相當ト思考致候得共利益解釋トシテ之レニ據ラサルヲ可ナリトスル說有之如何ニ候哉何分ノ御指示相仰度

大正十三年二月十八日
行丙第二三七號(司法省行刑局長)
司法省刑事局長

廣島刑務所長殿

勾留二月滿了被告人釋放ニ關スル件

二月九日發第二七四號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承右釋放ニ付テハ檢事ノ指揮ヲ要セス勾留期間ノ計算ニ付テハ刑事訴訟法第八十一條中時効期間ノ計算ノ例ニ依ルヘク釋放ノ時期ニ付テハ滿了ノ日ノ午後十二時ヲ以テスルヲ原則トシ本人ノ希望ニ依リ翌日迄留置スルコトヲ得ルモノト御承知相成度候

刑發第一七〇九號(大正十二年十二月十八日)
熊本刑務所長

司法省刑務局長殿

刑事訴訟法改正ニ伴ヒ疑義ノ件伺

刑事訴訟法改正ニ伴ヒ左記疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承リ度

左記

- (一) 勾留期間滿了ノ刑事被告人ハ職權アル者ノ命令ヲ待タス監獄法第六十八條ノ規定ニ準シ之ヲ釋放シテ可然哉
- (二) 現行刑事訴訟法ニヨル勾留中ノ刑事被告人(經過勾留日數ノ長短ヲ問ハス)ハ改正刑事訴訟法施行當日ヨリ起算シニケ月ノ期間終了ト同時ニ之ヲ釋放シテ可然哉
- (三) 監獄法第一條ノ刑事被告人中ニハ改正刑事訴訟法ニヨリ勾留セラル可キ被疑者ヲ

モ包含スト解シ可然哉

- (四) 右被疑者竝勾引狀ニヨリ一時留置セラレタル被告人ハ職權アル者ノ命令ヲ俟ツテ之ヲ釋放ス可キモノト解シ可然哉

大正十三年二月十八日
行丙第一九五六號(司法省刑務局長)
司法省刑務局長

熊本刑務所長殿

刑事訴訟法中疑義ノ件回答

十二月十八日刑發第一七〇九號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承左記ノ通御了知相成度候

- (一) 御意見ノ通但シ釋放ノ時期ハ期間滿了ノ日ノ午後十二時ヲ原則トスヘク本人ノ希望アル場合ニ於テノミ監獄法第六十八條ノ規定ヲ準用スルモ支障ナシ
- (二) 及
- (三) 及
- (四) 御意見ノ通

三五

司法省刑事第一七七一號(大正十三年二月十九日司法省刑事局長通牒)
刑事局長 檢察總長 檢察長 檢察正 宛)

上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル場合ニ於ケル

刑ノ執行指揮ニ關スル件

被告人カ上訴ノ拋棄ヲ爲シ又ハ上訴期間内ニ上訴ノ取下ヲ爲シタル事件ニ付檢事ニ於テ上訴ノ意思ナキ場合ニ於テハ刑事訴訟法第三百八十四條及第三百八十五條ニ則リ檢事ヨリ上訴拋棄ノ申立ヲ爲シタル上直ニ刑ノ執行ヲ指揮スル様致度依命及通牒候也

三六

刑務第一一號(大正十三年二月十六日)
長野 刑務所長)

司法省行刑局長殿
司法省刑事局長殿

豫審中ノ被告人ト辯護人トノ接見ニ關スル件照會

改正刑事訴訟法第三十九條ノ規定ニ依リ豫審中辯護人ノ選任ヲ許サルルコトト相成候ニ就テハ豫審中辯護人ト被告人ト被告事件ニ關スル交談ノ必要モ生スヘク隨テ大正二年八月監祕甲第四七號監獄局長法務局長御通牒豫審中ノ在監被告人接見ノ件ハ自然消滅ト相成接見禁止ノ命アルモノヲ除キ豫審中ノ被告人ニ對シ辯護人ヨリ被告事件ニ關スル交談ヲ願出テタル場合ニハ刑務所限リニテ接見ヲ許可シ差支ナキコトト思料セラレ候ヘトモ爲念及御問合候條何分ノ御指示相煩度候

行丙第二八六號(大正十三年二月二十一日)
司法省行刑局長
司法省刑事局長)

長野刑務所長殿

豫審中ノ被告人ト辯護人トノ接見ニ關スル件回答

二月十六日刑祕發第一一號標記御照會ノ件ハ御意見ノ通ト御了知相成度候

大正十三年二月二十三日
司法省刑事第一七八一號
司法省行刑局長

大審院長
檢察總長
控訴院長
檢察事長
地方裁判所長
檢察事正
刑務所長

御中

被告人ノ爲ス上訴ノ拋棄又ハ取下ノ通知ニ關スル件

被告人上訴ノ拋棄ハ取下ヲ爲ス爲刑事訴訟法第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル場合ニ於テ其ノ同意ヲ得スシテ拋棄又ハ取下ノ申立書ヲ差出シタルト

キハ裁判所又ハ刑務所ハ被告人ニ對シ右ノ同意ヲ得ルニ非レハ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ注意シ其ノ要件ヲ具備スルニ至リタル後檢事ニ通知スル様致度及通牒候

刑事局刑事第一九〇一號
大正十三年二月廿三日
司法省
法次官通牒
廳府縣長官宛

法人處罰規定制定方ニ關スル件

從來法人ニ關シテハ訴訟上當事者能力ヲ認メサリシ結果廳府縣令中法人ヲ處罰スヘキ場合ニ其代表者ヲ以テ被告人ト爲ス旨ノ規定有之候處本年一月一日ヨリ施行ノ改正刑事訴訟法第三十六條ニ依リ法人ニモ當事者能力ヲ認ムルニ至リタルヲ以テ爾後斯ル場合ニハ法人自體ヲ被告人ト爲スヘク代表者ヲ以テ被告人ト爲スヘキモノニ非サルニ拘ラス今尙代表者ヲ以テ被告人ト爲ス旨ノ規定制定セララル向有之解釋上疑義ヲ生スル虞有之候條廳府縣令制定ノ際ニハ右ノ點ニ御留意相成候様致度爲念及通牒候也

司法部 刑事第一九三四號 (大正十三年二月二十三日)
刑事局長 (司法省 刑事局長)

大	審	院	長		
檢	事	總	長		
控	訴	院	長		
檢	事	長			
地	方	裁	判	所	長
檢	事	正			

御 中

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑竝回答ノ件通牒

別紙爲御參考差進候也

(別紙)

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑竝回答

福井地方裁判所檢事正問合

(一)問 刑事訴訟法第三三八條第三項ノ場合ニ於テ辯護人ノ發問ニ對シ檢事ノ裁判長ニ對シ爲スヘキ注意的發言權ヲ認ムルニ於テハ反對ノ場合ニ於テハ辯護人ニモ亦同一發言權ヲ認ムヘキカ

答 被告人等ヲ公判ニ於テ直接ニ訊問スルノ許可ヲ檢事又ハ辯護人ニ與フルト否トハ一ニ裁判長ノ決スルトコロニシテ裁判長ニ於テ其ノ許可ヲ與ヘタル以上ハ檢事タルト辯護人タルトヲ問ハス濫ニ他ノ訊問ノ當否ヲ云爲シ裁判長ニ對シ其ノ差止ヲ請求スル等裁判長ノ專權ニ容喙スヘキモノニ非ス

(二)問 刑事訴訟法第三二三條第三五一條第三二六條第三二四條第二項第三〇二條ノ規定ニヨリ辯護人カ其ノ取調ニ立會ヒタル場合ニ於テハ辯護人ハ被告人證人等ニ對シ直接訊問權アリト認ムヘキカ

答 辯護人カ刑事訴訟手續ニ於テ被告人等ヲ直接ニ訊問シ得ルハ刑事訴訟法第三百

三十八條第三項ノ規定ニ依リ公判ニ於テノミ認容セラレタルトコロニシテ豫審其ノ他ニ於テハ特段ノ規定ナキヲ以テ假令訊問取調ニ立會フコトヲ得ル場合ト雖辯護人自ラ訊問ヲ爲スコトヲ得ス

(三) 辯護人カ刑事訴訟法第三九條第二項中ノ者ヨリ選任セラレタルト被告人ヨリ選任セラレタル場合トヲ問ハス同第三〇三條第二項ノ處分請求ヲ爲スニ際シ其ノ委任者ト打合ハセテ爲シ又ハ被告人利益ノ反證ヲ提出スル事實ノ調査ヲ爲スニ際リ豫審處分ニ立會ヒタル爲知得タル事實ニ全然觸レサルニ於テハ打合セ又ハ調査ヲ爲スニ由ナシ故ニ豫審處分ニ立會ヒ知得タル經過等ニ觸レス單ニ立會シ知得タル實驗ニ基キ何々ノ事實ニ關シ利益ノ反證アリヤ否ヤト委任者ニ訊問スル如キハ法ノ禁止スル所ニアラサルヘキカ

答 辯護人ハ豫審ノ祕密保持ヲ害セサル限り委任者ト事件ニ付打合ヲ爲スコトヲ得

四〇

秋刑發第一〇二六號(大正十二年十二月二十六日) 秋田刑務所(長)

司法省行刑局長殿
司法省刑務局長殿

新刑事訴訟法疑義ノ件照會

(一) 刑事訴訟法第二百二十二條第三項被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムル必要アルトキハ裁判所ハ期日ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得トアリ此ノ場合ニ於テハ勾留中ナルトキハ勾留ヲ取消サスシテ爲スヘキカ果シテ然リトセハ監獄法第四十三條同法執行規則第一百四條ニ依リ取扱フヘキモノナリヤ

(二) 同法第一百三條勾留ノ期間及同法第三百八十一條上訴ノ提起期間ハ同法第八十一條ヲ適用スヘキトノ說又勾留當日又ハ裁判告知ノ當日及最終日休日ナルトキモ期間

ニ算入スヘキトノ説アリ何レカ可ナルヤ

(三) 同法第百十三條ニ勾留ノ期間ハ二月トストアリ然ルニ之ヲ更新セサルトキハ監獄

ハ其ノ期間ノ滿了ノ翌日釋放スヘキモノナリトノ説アルモ平沼博士新刑事訴訟法要論二百八十一頁ニハ檢事ハ裁判所ノ決定ヲ待タスシテ釋放スヘキモノナリトアルヨリ考フルトキハ此ノ場合ニハ檢事ノ釋放指揮ヲ要スルモノノ如シ如何

行丙第一九號 (大正十三年二月二十五日)
(司法省行刑局長)
(司法省刑事局長)

秋田刑務所長殿

刑事訴訟法中疑義ノ件回答

十二月二十六日秋刑發第一〇二六號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承左記ノ通ト御承知相成度候

(一) 保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止等ノ方法ヲ採リ實際ノ必要ニ應スヘク處置スヘ

キモ然ラサル場合ハ收容者トシテ取扱フヘキモノトス

右ニ付テハ左ノ通變更通牒アリ(大正十三年四月二十一日刑事第三六〇〇號刑事局長通牒)

勾留中ノ被告人ニ對シ刑訴第二二二條第三項ノ場合ニ付テハ留置決定ノミヲ爲シ勾留ノ取消又ハ執行停止ノ決定ヲ爲スヲ要セサルモノトス

右留置ノ決定ニ因リ勾留ハ當然其ノ執行ヲ停止セラレヘキモノトス

(二) 勾留期間ノ計算ハ刑事訴訟法第八十一條中時効期間計算ノ例ニ依ルヘク上訴ノ

提起期間ハ同條計算ノ原則ニ依ルヘキモノトス

(三) 檢事ノ指揮ヲ待ツヘキモノニアラス

四一

刑發第一一號 (大正十三年一月九日)
(新鴻刑務所長)

司法省行刑局長殿

豫審中ノ刑事被告人ト辯護人トノ接見ニ關スル件

刑事訴訟法第三十九條ニ依リ豫審中ノ刑事被告人辯護人ヲ選定シタル場合ニ於テ同法
第一百十二條ニ依リ接見禁止セラレサル限り該被告人ト辯護人ト接見ノ際事件ノ内容ニ
付談話ヲ許スモ差支ナキ儀トハ愚考候得共如何ニ候哉御高見拜承致度候

行丙第三九號 大正十三年二月二十五日
司法省刑務局長

新潟刑務所長殿

豫審中ノ刑事被告人ト辯護人トノ接見ニ關スル件回答

一月九日刑發第一一號ヲ以テ御照會ノ標記ノ件ハ御意見ノ通ト御承知相成度候

四二

靜發第四五號 大正十三年一月十四日
靜岡刑務所長

司法省刑務局長殿

變死者アリタル場合通報ニ關スル件

刑事訴訟法第八十二條第一項ニハ「變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其所
在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ」トアリ從ヒテ今後變
死者アリタル場合ハ檢事ニ通報シ檢視ヲ受クルモノノ如シ然ルニ監獄法施行規則第百
七十七條第二項ニヨレハ警察官署ニ通報檢視ヲ受クヘシトアリ要スルニ刑事訴訟法第
百八十二條ハ多少ニ拘ラス死因犯罪ニ在ルコトヲ疑フヘキ狀況存スル場合ノミ檢事ニ
通報シ檢視ヲ受クルモノニシテ刑務所ニ於ケル縊死ノ如キ死因何等犯罪ニ在ルコトノ
疑ヒナキモノハ從來ノ通り監獄法施行規則第七十七條第二項ニヨリ處置スルモノト
心得可然哉取扱上疑義相生シ候ニ付何分ノ御回指相煩シ度候

行丙第六六號 大正十三年二月二十五日
司法省刑務局長

靜岡刑務所長殿

檢視ノ件回答

標記ノ件ニ付一月十四日靜發第四五號ヲ以テ御照會相成候處右ハ御意見ノ通ト御承知相成度候

四三

名刑發第一二〇號 大正十三年一月二十二日
名古屋刑務所長兼
名古屋少年刑務所長

司法省行刑局長殿

改正刑事訴訟法實施ニ關スル件伺

(一) 豫審中ノ被告人ノ接見ノ件ニ付テハ大正二年八月監祕甲第四七號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處改正刑事訴訟法實施以後ニ於テハ豫審中ト雖辯護人ヲ付スルコトヲ得ヘキカ故ニ當然監獄法施行規則第二百五條第二項ニ依據シ豫審ニ於ケル辯護人ノ接見ヲ差許スヘキハ勿論ノ義ト思料候モ刑務所トシテハ當該被告事件ノ内容竝ニ豫審進行ノ程度ヲ深ク了知セサル關係上或ハ接見ノ爲豫審ノ祕密保持ヲ害シ自然罪證

湮滅ノ機會ヲ與フルカ如キ結果ヲ惹起スル虞ナシトセス依テ當該被告事件ニ關スル交談ハ從前ノ通豫審判事ノ命令アル場合ノ外之ヲ許ササルコトニ取扱ヒ可然哉

(二) 刑事訴訟法第二百二十三條及第二百二十九條ニ依リ勾引又ハ勾留セラレタル被疑者ニ對シテハ同法第一百一條及第一百十二條ノ準用ナキヲ以テ此等被疑者カ他人ト授受スル信書ニ付テハ典獄限リノ檢閱ヲ以テ足ルコトト思料候モ信書ニシテ不適當ト認メタル場合典獄トシテ之カ發受ヲ拒否スル權能ナク而カモ之ヲ檢閱ノ爲檢事ニ提示スルコトモ聊カ穩當ナラスト思料ス如何ニ處理シ可然哉

行丙第一二〇號 大正十三年二月二十五日
司法省行刑局長
司法省刑事局長

名古屋刑務所長兼
名古屋少年刑務所長殿

改正刑事訴訟法ニ付疑義ノ件回答

一月二十二日名刑發第一二〇號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承右ハ左記ノ通ト御承知

相成度候

- (一) 豫審中ノ刑事被告人ト辯護人トノ接見ノ際事件ノ内容ニ付談話スルモ差支ナシ
大正二年監祕甲第四七號通牒ハ自然消滅トス
- (二) 被疑者ニ付明文ナシト雖法ノ精神解釋トシテ被告人ト同一ニ取扱フヘキモノト
思料ス

四四

青刑祕發第六號(大正十三年二月十八日)
青森刑務所長

司法省行刑局長殿

弘前支所司法警察官任命ニ關スル件

當所弘前支所ハ昨年四月行政整理以來看守長ノ配置ヲ減セラレ看守部長ニ支所長心得ヲ命シ處理致居候就テハ本年一月十日附行祕第四號御通牒ニ係ル司法警察官ノ職務ヲ

行フモノハ右支所長心得タル看守部長ニ命シ差支無之候哉何分ノ御回示相成度候

行祕丙第二七號(大正十三年二月廿六日)
司法省行刑局長

青森刑務所長殿

弘前支所司法警察官任命ニ關スル件回答

二月十八日青刑祕發第六號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承看守部長タル支所長心得ハ監獄官制上分監長タルヲ得ス從テ昨年勅令第五百二十八號第三條ノ適用ナク同勅令第四條ニ依リ司法警察吏ヲ命スヘキモノニ有之候

四五

奈刑發第三九一號(大正十三年二月二十三日)
奈良刑務所長

司法省行刑局長殿

刑事被告人勾留期間起算ノ件

刑事訴訟法第一一三條ノ勾留期間ハ勾留狀執行ノ日ヨリ起算スヘキモノト思料致候得共當裁判所検事局ヘハ現實勾留狀指定ノ刑務所ニ收容ノ日ヨリ起算スヘキ旨本省ヨリ通牒アリシ趣ニ有之果シテ然リトセハ勾留狀執行當日直ニ刑務所ニ送致スル事能ハス一時警察署留置場ニ拘禁シタル場合ノ如キ本人ノ不利益ニ歸スル事ト相成候右ハ何レヲ起算日トスヘキヤ差迫リタル件有之候條至急何分ノ御指示仰度候

大正十三年二月二十八日
行丙第三二二號
司法省 行刑局長
司法省 刑事局長

奈良刑務所長殿

勾留期間起算ノ件回答

二月二十三日奈刑發第三九一號ヲ以テ標記ノ件御照會相成了承右ハ勾留狀ニ指定セラレタル刑務所ニ引致シタル日ヨリ起算スヘキ義ニ有之候

四六

司法省 第一九四三號
大正十三年三月一日 大坂控訴院
刑事局長 問合刑事局長 行刑局長 回答

(一) 問 刑事訴訟法第五百五十六條第一項第一號ニ所謂檢事ノ上訴中ニハ檢事ノ附帶控訴モ包含スルヤ
答 包含セス

(二) 問 同條第一項第二號ニ所謂檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其理由アリト爲ス標準ニ付例ヘハ連續犯ノ犯罪箇數ノ増減又ハ一罪中ノ被害數額ノ増減變更ノ如キハ其程度ノ如何ヲ問ハス其理由アルモノト爲ササルカ如シ如何
答 貴見ノ通り

(三) 問 死刑確定ニヨリ拘留中ノ者今回勅令ニ依リ無期刑ニ減刑セラレタル者ニ對スル刑期ノ起算日ハ死刑確定ノ日ナリヤ又ハ減刑ノ日トナスヘキヤ
答 後段貴見ノ通り

司法部 刑事第二〇六八號 (大正十三年三月三日 高千穂 區裁判所檢察官合判事局長回答)

(一問) 併合審判ノ決定(第四條第七條)ニ基キ上級裁判所又ハ同等ナル一ノ裁判所ノ公判ニ併合セラルヘキ事件ハ下級裁判所又ハ同等ナル他ノ裁判所ノ公判ニ適法ニ繫屬シ其裁判所ニ審判權發生シタルコトヲ條件トスルヤ
將又形式上事件繫屬セハ不適法ノ繫屬換言セハ訴訟條件ヲ欠如スル事件ト雖モ併合シ得ルヤ

答 留保

(二問) 保釋責付勾留ノ執行停止ノ取消決定アルモ被告人召喚ニ應セス又ハ逃走シタルトキハ該決定ノ執行ヲ爲ス能ハス此ノ場合ニハ第八十六條第八十七條第三號ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ルヤ

答 發スヘキモノニ非ス前ノ勾留狀ニ依リ執行スヘシ

(三問) 區裁判所ニ於テ判決ヲ爲ストキハ第六十六條ノ例外トシテ必シモ判決書ヲ作成セス公判調書ニ記載セシメテ判決ニ代用セシムル法意ナリトセハ第三百六十一條ニ所謂公判調書ニ記載セシメトハ判決宣告ノ際ニ公判調書ニ記載ヲ命シタル場合ヲ謂フヤ

將又判決宣告後ト雖上訴申立ナク且七日内ニ判決謄本ノ請求ナカリシ場合モ公判調書ニ附記セシムルモ判決代用ノ效アリト解スヘキヤ
果シテ後段ノ如シトセハ宣告後判決ヲ公判調書ニ記載セシメサル内判事判決書ヲ作成スル能ハサル事情(死亡其他)發生シタルトキハ如何ニ處理スルヤ

答 判決調書ノ記載方ニ付テハ大正十二年十二月五日刑事第九五四六號注意事項第八ニ依リ了知セラレタシ
事實上判決書ヲ作成スル能ハサルトキハ其儘差置ノ外ナシ

(四) 第三百六十一條ニ所謂上訴ノ申立ナキ場合トハ上訴期間内ノミニ上訴ノ申立ナ

カリシ場合ヲ云フヤ果シテ然リトセハ上訴期間内ニ上訴申立ナク且謄本請求モナカリシ爲公判調書ニ記載セシメテ判決ニ代用シタル處其後上訴權回復ノ請求ヲ許ス決定確定シタルトキハ更ニ判決書ヲ作成スルノ要アリヤ此時判事既ニ判決書ヲ作成スル能ハサル事情(死亡其他)發生シタル場合ハ如何ニ處理スルヤ

答 作成ノ要アリ事實上作成不能ノトキハ其儘差置ノ外ナシ

(五) 區裁判所ニ於テ第三百六十一條ノ場合ニハ公判調書ニ記載セシメシテ判決主文故罪トナルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ノミヲ具備スル判決書ヲ作成シ得ルヤ

答 證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ示ササル判決書ヲ作成スルヲ得ス

(六) 第三百七十一條勾留中ノ被告人ニ對シ無罪免訴刑ノ免除刑ノ執行猶豫又ハ罰金

科料ノ言渡アリタル場合ハ判決宣告ト共ニ釋放スヘキモノニシテ判決確定マテ勾留ヲ許ササル法意ナリヤ

答 刑事訴訟法第三百七十一條第一項ニ依ル放免ノ言渡ハ裁判確定スルニ非サレハ執行スルヲ得ス

四八

司法省 刑事第二〇六九號 (大正十三年三月三日 奈良地 刑事局長問合刑事局長回答)

(一) 第六條第二項又ハ第七條第二項ニ依リ移送又ハ併合ノ裁判ハ豫審判事ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキヤ或ハ豫審判事ノ屬スル裁判所ニ於テ爲スヘキモノナリヤ

答 後段貴見ノ通

(二) 告訴又ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付之ヲ待タスシテ公訴ヲ提起シタル後告訴又ハ請求アリタル場合ニ於テハ公訴提起ノ手續有效ト認メ得ヘキヤ或ハ第三百

六十四條第六ニ依リ公訴ヲ棄却スヘキヤ

答 後段貴見ノ通リ

(三) 併合罪中ノ一箇ノ犯罪ニ對シテ無罪ノ判決アリタルトキ其部分ニ付檢事ヨリ控訴アリタル場合又ハ有罪ノ部分ニ付被告人ヨリ控訴アリタル場合ニ前段ハ全部ノ控訴後段ハ一部ノ控訴ナリヤ又ハ各一部ノ控訴ナリヤ

答 後段貴見ノ通

四九

司法省 刑事第二〇七〇號 (大正十三年三月三日 宮城控 訴院檢事長問合刑事局長回答)

(三) 問 甲男(相姦者)ハ第一審ノ有罪判決ニ服シ乙女(姦通者)ハ控訴ノ申立ヲ爲シ控訴審ニ於テハ無罪ヲ言渡シ該判決確定シタリ此ノ場合ニ於テ第四百五十一條ノ如キ規定ナキ爲メ甲男ニ對スル救済ノ途ナキヤ(第四八五條第六號ニ依リ再審ノ

請求ヲ爲シ得ル新證據ヲ發見シタル場合ハ格別)右ノ場合ニ於テ告訴ノ取下アリタルトキ亦同一ノ疑義ヲ生ス

答 貴見ノ通

(四) 問 刑ノ執行猶豫ヲ言渡シ又ハ言渡ヲ爲ササルコトカ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモ上告ヲ爲スコトヲ得サルヤ(第四百十二條ニ所謂「刑量定中」)ニハ刑ノ執行猶豫ヲ包含セサルヤ

答 刑ノ量定トハ刑ニ關スル一切ノ裁量處分ヲ包含セルヲ以テ刑ノ執行猶豫ヲ包含ス

五〇

司法省 刑事第二〇七一號 (大正十三年三月三日 司法省刑事局長)

大 審 院 長
檢 事 總 長

控 訴 院 長
 檢 事 長 (宮城ヲ除ク)
 地 方 裁 判 所 長
 檢 事 正
 御 中

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑並回答ノ件

別紙爲御參考差進候也

(別紙)

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑並回答ノ件

(宮城控訴院檢事長問合)

問 刑事訴訟法第三百四十三條第二項ノ「區裁判所ノ事件」中ニハ豫審ヲ經サル短期一年未滿ノ懲役、禁錮、罰金、拘留、科料ニ該ル罪(裁判所構成法第十六條)ニ付テハ假令地方裁判所カ第一審トシテ審理スル場合ヲモ包含スルヤ又ハ區裁判

所カ第一審トシテ審理スル事件ニ限ルヤ
 答 後段貴見ノ通

五一

司法部 刑事第二一四七號 (大正十三年三月三日)
 刑事局 (司法部刑事局長)

大 審 院 長
 檢 事 總 長
 控 訴 院 長
 檢 事 長
 地 方 裁 判 所 長
 檢 事 正
 御 中

闕席裁判ヲ受ケタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ノ效力ニ關スル件
 闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ノ效力ニ付疑ヲ懷ク向モ有之哉ニ

聞及候處右ハ其ノ發付ノ時期新法施行ノ前後ヲ問ハス共ニ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有ス
ルモノト思考被致候條爲念及通譯候

五二

司法省 刑事第二一九七號 (大正十三年三月五日 水戸地方
刑事局 裁判所檢察事正問合刑事局長回答)

問 檢事變死者又ハ變死ノ疑アル死體ニ付檢視處分ヲ爲シ引續キ檢證ヲ爲ストキハ
鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤ

答 刑事訴訟法第二百二十八條ニ依リ第二百十四條第一項ニ規定スル場合ニ該當ス
ルトキハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

五三

司法省 刑事第二一九八號 (大正十三年三月五日 廣島地方
刑事局 裁判所檢察事正問合刑事局長回答)

(一)問 親告罪ニ付公訴提起後適法ニ告訴ノ取消アリタルトキ檢事ハ公訴ノ取消ヲ爲ス
コトヲ得ルヤ

答 貴見ノ通

(二)問 刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シ十日内ニ起訴セルトキ
ハ其勾留ノ期間如何

答 二月

(三)問 犯罪ノ證明ナキモノトシテ無罪ノ判決言渡アリタルトキ檢事ハ刑事訴訟法第四
百十四條ニ依リ上告ヲ爲スコトヲ得ルヤ

答 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ貴見ノ
通

司法部刑事第二四八〇號(大正十三年三月十日司法部刑事局長通牒)
刑事局長檢察總長控訴院長檢察長地方裁判所長檢察正宛)

第一 廣島控訴院長問合

問 公判準備ニ於ケル證據調ノ請求及之ニ對スル裁判ノ如キハ之ヲ調書ニ記載スルノ途ナキヤ

甲說 凡ソ新刑事訴訟法ニ於テ書記カ作成スヘキ調書ハ總則第六章ニ規定アル場合ニ限ルモノトス然ルニ公判準備ニ於ケル一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘキ調書ノ作成ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ之ヲ作成スルヲ得ス只準備手續ニ於ケル被告人等ノ訊問、檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ總則第六章ノ規定ニ從ヒ各場合ニ適應セル調書ヲ作成スヘキニ止マリ證據調ノ請求及之ニ對スル裁判ノ如キハ素ヨリ之ヲ該調書ニ記載スヘキモノニ非サルナリ

乙說 總則第六章中ニハ公判準備ニ於ケル調書ヲ作成スヘキ旨ノ明文ナキモ公判準備ニ於ケル訴訟手續一切ヲ記載スヘキ調書ヲ作成スルハ實際ニ於テ極メテ必要ニシテ法律ノ精神亦恐クハ此ニ存スルナラン現ニ本省ヨリ送付ニ係ル用紙書式中公判準備調書ナル雛形ノ存在ニ徵スルモ之ヲ推知シ得ヘシ云々
答 公判準備期日ニ於テ證據調ノ請求又ハ之ニ對スル裁判アリタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ得

第二 鹿兒島地方裁判所檢察正問合

問 司法警察官カ被疑者若クハ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ刑事訴訟法第三百二十九條第二百十六條ニ依リ司法警察吏ヲシテ立會ハシムルコトヲ要ス然ルニ勅令第五百二十八號第四條第四號ニ依リ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニハ其部下ニ司法警察吏ノ職務ヲ行フ附屬吏ナキ故ニ之ヲ立會セシムルコト能ハス就テハ該條ハ司法警察吏アル場合ニハ之ヲ立會セシムヘキモ之ナキ場合ニハ立會ヲ要セストノ趣旨ニ解シ可然

哉將亦規範第二十八條ニ依リ司法警察吏タル巡查憲兵卒ニ援助ヲ求メ立會セシム可
キモノナリヤ

答 司法警察官ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第三百十條又ハ第二百十六條ニ依リ訊問ヲ
爲ス場合ニ司法警察吏在ラサルトキハ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ヲシテ立會ハシム
ルモ差支ナシ

五五

大正十三年三月十四日電報 松江
地方裁判所長問合 刑事局長回答

問 刑訴第二百五十五條ニ依リ呼出タル證人ニ大正十年司法省令第十二號ニ依リ旅費
支給シ差支ナキヤ (以下略)

答 證人ニ旅費支給ノ件ハ裁判費ヨリ支給シ差支ナシ

五六

司法省刑事第二六五七號 (大正十三年三月十四日)
刑事局長 司法省刑事局長

刑務所長 御 中

闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ノ效力ニ關スル件

闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ノ效力ニ付疑ヲ懷ク向モ有之哉ニ
聞及候處右ハ其ノ發付ノ時期新法施行ノ前後ヲ問ハス共ニ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有ス
ルモノト思考致候條爲念及通牒候

五七

司法省刑事第二六六一號 (大正十三年三月十七日) 司法省刑事局長 通牒
刑事局長 檢察長 地方裁判所長 檢察正 刑務所長 宛

勾留更新決定ノ執行ニ關スル件

勾留更新決定ノ執行ニ付テハ勾留狀ノ執行ニ準シ決定ノ原本ヲ檢事局ニ送付シ檢事之ニ認印シテ指揮ヲ爲スコトト致度此段及通牒候也

尙大審院ニ於ケル取扱モ右ト同様ニ相成居候間爲御參考申添候

五八

司法省(大正十三年三月十五日)
行刑局(行甲第三六六號)司法省(行刑局長)

大 審 院 長

檢 事 總 長

檢 事 長

地 方 裁 判 所 長

檢 事 正

御 中

刑事訴訟法ニ關スル質疑回答ノ件通牒

別紙爲御參考差進候也

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑回答

(札幌地方裁判所檢事正問合)

問(一) 新刑事訴訟法第五百五十六條ノ通算未決勾留ハ新刑事訴訟法實施後ノ分ノミヲ

通算スヘキヤ又ハ新刑事訴訟法實施前ニ於ケル勾留ヲモ通算スヘキヤ

答 後段貴見ノ通

問(二) 被告ノ控訴理由アリ更ニ被告ヨリ上告ヲ爲シ上告棄却若ハ上告取下ヲ爲シタル

場合ニ於ケル通算方法

一、控訴申立ノ日ヨリ上告申立ノ日迄ナリヤ

二、控訴申立ノ日ヨリ上告申立ノ前日迄ナリヤ

三、控訴申立ノ日ヨリ控訴判決確定ノ前日迄ナリヤ

四、上告申立期間内ニ取下ケタル場合ハ取下ノ日迄ナリヤ

答 控訴申立ノ日ヨリ上告申立ノ前日迄上告取下アリタルトキト雖亦同シ

五九

司法部刑事第二七三一號（大正十三年三月十七日）
（司法部刑事局長通牒檢事正宛）

不起訴記録送付方ニ關スル件

從來民事事件ノ證據決定ニ基キ不起訴記録送付方囑託アリタル場合ニ於テ之ニ應スヘキヤ否ニ付處理方一定シ居ラサル哉ニ有之候處刑事訴訟法第五十五條制定ノ趣旨ニ從ヒ囑託ニ應セサルヲ相當ト思料被致候條御承知相成度爲念此段及通牒候也

六〇

司法部行甲第三七八號（大正十三年三月十七日司法部行刑局長通牒 刑務所長少年刑務所長宛）

勾留狀ノ效力ニ關シ期間計算方ノ件通牒

首題ノ件ニ付往々疑義ヲ懷カルル向有之候間爲念左記及通牒候

一、勾留期間ノ計算方ハ時効期間ト同シク初日及刑事訴訟法第八十一條第三項ニ定

ムル日ニ該當スル期間ノ末日モ共ニ之ヲ期間ニ算入スヘキモノトス

二、勾留ノ期間ノ起點ニ付テハ勾留狀ニ指定セラレタル刑務所ニ引致セラレタル日ヨリ起算スヘキモノトス

三、勾留狀ノ效力ニ係ルニケ月ハ現實被告人ヲ拘禁スル期間ナルヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ノ決定ヲ受ケ釋放シタル後該決定取消サレタルトキ或ハ逃走シタル被告人ニシテ逮捕セラレタルトキハ前ニ拘禁セラレタル日數ヲ控除シテ二月ニ充ツル迄拘禁ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス

六一

司法部刑事第二七三八號（大正十三年三月二十日司法部刑事局長司法部行刑局長通牒 刑務局長檢事總長控訴院長檢事長地方裁判所長檢事正宛）

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑回答

廣島地方裁判所檢事正問合

問 刑事訴訟法第三百九十一條第一項後段ニ依リ上書ノ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタル場合右申立書差出ノ日ヲ以テ上訴申立ノ日トシ第五百五十六條ノ通算日數ハ其翌日ヨリ起算スルヤ又ハ該申立書カ原裁判所ニ到着シタル日ヲ以テ上訴申立ノ日ト認メ其翌日ヨリ起算スルヤ若シ前段ノ如ク解スヘキモノトセハ第三百九十一條第一項前段ノ場合モ同一ニ解スヘキヤ

答 刑事訴訟法第三百九十一條ニ依リ上訴ノ申立ヲ爲シタルトキハ前段ノ場合ト後段ノ場合トヲ問ハス第五百五十六條ノ末段勾留ノ日數ハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ申立書ヲ差出シタル日ヨリ起算スヘキモノトス

六二

司法省 刑事第二四二一號 (大正十三年三月二十六日 秋田地方 刑務局長 回答)

問 前略年々一萬件内外ノ即決件數ニ達スル違警罪ヲ凡テ檢事ニ於テ受理スルニ至ラ

ンカ事務ノ取扱上大ナル支障ヲ來スニ至ル可シ故ニ巡查其他ノ官公吏ノ所謂即決事件ニ付爲ス犯罪ノ申告ハ之ヲ報告書又ハ上申書等ノ形式ニ於テ爲サシメ差支ナキヤ
答 貴見ノ通思料

六三

司法省 刑事第二七五六號 (大正十三年三月二十六日 刑務局長 通牒)

刑務所長宛

勾留狀ノ效力ニ關スル件

刑事訴訟法第二百二十九條ノ勾留狀ノ效力ニ關シ疑義ヲ懷ク向モ有之候處同條ニ依リ檢事勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ當該事件ノ處理ヲ爲スコトヲ要スルハ勿論ナレトモ同勾留狀ノ效力ニ付テハ同法第二百五十七條ニ於ケルカ如キ別段ノ規定ナキヲ以テ勾留ノ期間ハ二月ナリト御了知相成度爲念及通牒候

六四

司法省 刑事第三〇一一號 (大正十三年三月二十八日 鳥取地方
刑事局長問答) 裁判所檢事正問合 刑事局長問答)

一、問 刑事訴訟法第二百五十五條ニ依リ判事ノ呼出シタル證人鑑定人ニ支給スヘキ
日當旅費等ハ刑事訴訟費用法ニ據リ支給スヘキモノナリヤ將タ犯罪捜査ノ爲檢
事ノ呼出シタル者トシテ支給スヘキモノナリヤ若シ後段ノ通ナリトスレハ其支
給額ハ檢事ニ於テ定ムヘキモノナリヤ將タ當該判事ニ於テ定ムヘキモノナリヤ

答 大正十年司法省令第十二號ニ依リ支給シ差支ナシ

二、問 親告罪ニ付キ公訴提起後告訴ノ取消アリタル時ハ檢事ハ公訴ヲ取消スコト得
ルヤ

答 貴見ノ通

六五

司法省 刑事第一三七五號 (大正十三年四月一日 廣島控
刑事局長問合) 訴訟長問合 刑事局長問答)

一、問 刑事訴訟法第十一條ニ依リ判事カ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フ必要アル場合
ハ裁判所及檢事局事務章程第二十六條ニ準據シ其出張ニ付當該官ノ認可ヲ受ケ
シムヘキ儀ニ候哉又ハ同章程第十七條ニ依ルヘキ儀ニ候哉

答 大正十三年二月二十一日司法省刑事第一九三七號訓令ニ依リ了知セラ
レタシ

二、問 豫審判事又ハ區裁判所判事カ刑事訴訟法第二百五十五條ニ從ヒ檢事ノ請求ニ
依リ強制處分ヲ爲シタル場合ノ費用ハ大正十年四月二十七日司法省令第十二號
ニ準據スヘキ儀ニ候哉

答 貴見ノ通

司法部 刑事第三五九〇號 (大正十三年四月十七日 內務省)
 刑事局 警保局長問合 刑事局長回答

(問) 刑事訴訟法ニ依リ司法警察官ノ取扱ニ係ル左記事項ニ付要スル費用ハ孰レモ直接

檢案事務ニ屬スルヲ以テ司法警察官ノ旅費日當等其ノ身分ニ屬スルモノノ外ハ檢事局ニ於テ負擔相成候ヲ相當ト被存候得共一應御意見承知致度

尙明治十四年貴省達ニ依リ警部代理ヲ命セラレタル巡查ハ刑事訴訟法第二百三條ニ依リ檢事ノ命令アリタル場合司法警察官トシテ勾引狀ヲ發シ得ルモノト被存候處急速ヲ要スル際警部代理ヲ命セル巡查ニ付テハ其氏名ヲ豫メ裁判所へ通牒候暇無之コト有之此ノ場合ト雖モ檢事ノ命令アリタルニ於テハ右巡查ニ於テ司法警察官トシテ勾引狀ヲ發シ得ルモノト存候得共是亦御意見承知致度(以下略)

記

一 檢事ノ命令ニ基キ司法警察官ニ於テ變死者又ハ變死者ノ疑アル死體ノ檢視ヲ爲シタル場合之ニ伴フ諸費

二 司法警察官カ檢證ヲ爲シタル場合之ニ伴フ諸費

三 司法警察官カ證人訊問、鑑定ノ命令ヲ爲シタル場合刑事訴訟法第二百十八條及第二百二十九條ニ依リ證人、鑑定人ノ請求ニ係ル旅費日當其他ノ諸費

答 司法警察官カ檢事ノ指揮又ハ命令ニ依ラス獨立シテ證人若ハ鑑定人ヲ訊問シ又ハ檢證等ヲ爲シタル場合證人、鑑定人ニ給スヘキ旅費、日當其他之ニ伴フ諸費ハ從來檢事局ニ於テ之ヲ支給シタル事例無之現在ニ於テモ支給致難キモノト思料致候尙巡查ニシテ警部ノ代理ヲ命セラレタル場合ニ於テハ其ノ氏名ヲ豫メ裁判所へ通牒シアルト否トニ拘ラス司法警察官トシテ職務ヲ行ヒ得ルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百三條ニ依リ檢事ノ命令シタル勾引狀ヲ發スルコトヲ得ルハ勿論ノ儀ト存候得共刑事訴訟法上嚴ニ司法警察官ト司法警察吏トヲ區別シタル趣旨ニ從ヒ巡查ヲシテ警

部ノ代理ヲ爲サシムルハ眞ニ不得止場合ニ限ルヘキモノト思料被致候條此點特ニ御留意相成度候

六七

司法部刑事第三六〇〇號(大正十三年四月二十一日司法部刑事局長通牒
刑事局長檢察總長控訴院長檢察長地方裁判所長檢察正宛)

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑回答

福井地方裁判所長問合

問一 勾留中ノ被告人ニ對シ刑事訴訟法第二百二十二條第三項ノ留置決定ヲ爲ス場合

ニ於テハ先ツ勾留ノ取消又ハ執行停止ノ決定ヲ爲スヘキモノナリヤ將タ留置決定ノミヲ爲スヘキモノナリヤ

答 後段貴見ノ通

問二 若シ勾留ノ取消又ハ執行停止ノ決定ヲ爲スコトヲ要セサルモノトセハ留置ノ決

定ニ因リ勾留ハ當然其ノ執行ヲ停止セラレヘキモノナリヤ將タ勾留ノ效力ハ依然存續シ同法第一百十一條第一百十二條等ノ規定ヲ適用シ得ヘキモノナリヤ

答 前段貴見ノ通

問三 前示第二百二十二條第三項ニ依リ被告人ヲ病院ニ留置シタル場合其留置期間内

ニ於ケル被告人ノ食料、間代等ノ如キ費用ハ刑事訴訟費用法第三條第二項ニ所謂鑑定ニ付特別ニ要シタル費用トシテ刑事訴訟法第一編第十六章ノ規定ヲ適用スヘキモノナリヤ

答 貴見ノ通

六八

司法部刑事第三七七五號(大正十三年四月二十一日司法部刑事局長通牒
司法省 大審院長 檢察總長 控訴院長 檢察長 地方裁判所長 檢察正宛)

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑回答

鳥取地方裁判所長問合

問 私訴判決ノ執行ニ關シ判決ノ正本ヲ下附シ得ルヤ。

消極說 新刑事訴訟法ニ於テハ正本ナルモノヲ認メサルカ故ニ私訴判決ノ執行ニ際シテモ之カ正本ヲ下附スルヲ得ス謄本又ハ抄本ニ依リ執行セシムヘキナリ

積極說 刑事訴訟法第五七二條一三號ニ依リ民事訴訟法ヲ準用スルノ結果私訴判決ノ正本ナルモノヲ下附スヘキナリ

答 積極說ノ通

六九

官公署ニ鑑定又ハ翻譯ヲ囑託シタル場合ニ

於ケル鑑定料又ハ翻譯料ニ關スル疑義ノ件

決議 刑事訴訟法第二百三十條又ハ第二百三十五條ニ依リ鑑定又ハ翻譯ノ囑託ヲ受ケタル官署又ハ公署ハ鑑定料又ハ翻譯料ヲ請求スルコトヲ得ス

大正十一年四月二十三日

七〇

司法部行甲第五四三號 (大正十三年四月二十八日) 司法省行刑局長通牒

- 大 審 院 長
 - 檢 事 總 長
 - 控 訴 院 長
 - 檢 事 長
 - 地 方 裁 判 所 長
 - 檢 事 正
 - 刑 務 所 長
 - 少 年 刑 務 所 長
- 宛

改正刑事訴訟法ニ關スル質疑回答ノ件通牒

別紙爲御參考差進候也

司法省刑事局長宛

未決勾留日數算入方ニ付質疑ノ件

判決ヲ以テ言渡シタル未決勾留ノ算入ニ付左記ノ通り疑義有之候ニ付何分ノ御回示相願度此段及問合候也

記

一 第一審裁判所カ大正十二年十月二十四日被告人ヲ勾留シ審理ノ結果無罪ノ言渡ヲ爲シ其判決ニ對シ同年十一月二十日檢察カ上訴申立ヲ爲シ（檢察ノ上訴迄未決勾留二十七日）第二審ニ於テハ同年十二月十五日有罪ノ判決ヲ爲スト同時ニ未決勾留日數三十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ言渡ヲ爲シ且即日保釋出所セシメタリ（檢察上訴後保釋迄ノ勾留日數二十六日）然ルニ被告ハ右判決ニ對シ上訴申立ヲ爲シ大正十三年三月二十日上告棄却ノ判決アリテ第二審判決通り裁判確定シ其未決勾留日數ノ算入

方ニ付左ノ二説アリ何レヲ可トスヘキヤ

甲説 檢察上訴後ノ未決勾留日數全部ハ刑事訴訟法第五百五十六條適用ノ結果當然本刑ニ算入セラレ判決ニ掲ケタル未決勾留通算ノ目的トナラス依ツテ檢察ノ上訴前ニ於ケル未決勾留ヲ通算スヘキ筋合ナルモ本件ノ場合ハ其日數二十七日ニシテ判示ノ三十日ニ滿タサルニ依リ現存スル未決勾留日數以上ノ日數ヲ通算スヘキ旨言渡シタル執行不能ノ判決ト同様ニ取扱ヒ通算シ得ヘキ二十七日丈ヲ算入シ其餘ヲ不問トス

乙説 第二審裁判所ハ判決言渡當時現存スル未決勾留日數五十三日ノ内三十日ヲ通算スル旨言渡シタルモノニ係リ五十三日ハ全部本刑ニ算入スヘキ趣旨ニアラス故ニ檢察上訴後ノ未決勾留日數ヲモ加ヘタル五十三日ヨリ三十日ヲ通算スヘク此場合刑事訴訟法第五百五十六條ノ通算即チ法定ノ通算ト裁判上ノ通算ト重複（上訴後ノ二十日六日間ハ重複ス）スルモ法律上之ヲ禁止スル條項ナキニ依リ判決當時豫想セサル法定ノ通算ハ裁判上ノ通算ニ吸收セラルヘキモノトス

司法省 行刑局 甲第五四三號 (大正十三年四月二十八日)
司法省 行刑局長 回答)

鳥取地方裁判所 檢事 正宛

未決勾留日數算入方ノ件 回答

四月七日第五九一二號ヲ以テ御問合ニ係ル標記ノ件ハ甲說ヲ相當ト思料致候
追テ刑事訴訟法第八編裁判ノ執行中刑ノ執行ニ關スル事項ハ司法省官制第六條第一
號ニ依リ當局ノ主管ニ有之本件ニ付テモ本官ヨリ及回答候

七一

大館區裁判所 監督刑事電報問合 (大正十三年五月二日)

勾留ノ強制處分請求アリタル場合ニ於テ被疑者ヲ訊問セス直ニ勾留狀ヲ發スルコトヲ
得ルヤ

司法省 刑事局長 回答 (同年五月三日)

訊問セスシテ勾留スルコトヲ得ス

七二

鹿兒島地方裁判所 檢事 正問合 (大正十三年四月廿九日)
乙第五三五六號)

司法警察官カ違警罪事件ニ付告訴ヲ受ケタル場合ニ於テモ刑事訴訟法第二百七十四條
ニ依リ即決處分ヲ爲サス檢事ニ送付スヘキモノト解シ可然哉即チ告訴ニ係ル事件ハ違
警罪即決例ノ適用ヲ受ケサルモノナリヤ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示ヲ煩ハシ
度此段及問合候也

司法省 刑事局長 回答 (大正十三年五月七日)
刑事第四二二七號)

客月二十九日付乙第五三五六號ヲ以テ御問合ニ係ル標記ノ件ハ貴見ノ通思考致候

七三

司法省 刑事第六五〇七號 (大正十三年五月二十九日)
刑事局長 通牒)

檢 事 正

監獄ニ在ル被告人上訴拋棄又ハ取下ニヨリ裁

判確定シタル場合ニ於ケル刑期計算方ノ件

監獄ニ在ル被告人上訴拋棄又ハ取下ニヨリ裁判確定シタル場合ニ於ケル刑期計算ハ上訴拋棄ノ申立書又ハ取下書ヲ刑務所ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタル日ヨリ起算スヘキモノト思料致候條此段及通牒候也

七四

宮發甲第三〇〇號(大正十三年五月三十日)
宮城刑務所長

司法省刑務局長殿

勾留狀ノ效力ニ關シ期間計算ノ件上申

標記ノ件ニ關シ五月二十一日行丙第一〇七九號ヲ以テ御指示ノ趣旨ニ基キ取扱致シ居リ候處今般更ニ仙臺地方裁判所古川支部豫審判事ノ勾留狀ニヨリ古川出張所收容中ノ刑事被告人ニ對シ勾留更新決定ニ付起算點ヲ異ニスル結果一日ノ相違ヲ生セリ右ハ曩ニ御指示ヲ仰キタル事故ト同一例ニ屬シ居ルヲ以テ懇ロニ協調セシモ裁判所ハ令狀執行當日ヨリ起算スルナリト主張シ爰ニ一日間ノ差異ヲ生シ取扱上忽チ差支候條裁判所ニ對シテモ同一趣旨ニ依リ取扱ヲナスヘキ様御指示可相成様致度
追テ本件ニ付テハ差當リ如何取計可然哉何分ノ御指示相仰キ候

實例

大正十三年三月二十三日古川支部豫審判事カ勾留狀ヲ發シ當日岩手山警察署へ留置(古川驛ト汽車便アリテ此間約一時間十分ヲ要ス)翌二十四日古川出張所ニ引致收容セリ因テ刑務所ハ現實身柄拘束シタル日ヲ以テ起點トシ五月二十三日期間滿了ニ付翌二十四日ヨリ期間更新ノ取扱ヲナセシ處裁判所ニ於テハ勾留狀執行當日即チ三月二十

三日ヲ起點トシ三月二十二日滿了翌二十三日ヨリ更新決定ヲナシタル爲メ茲ニ一日間ノ相違ヲ生スルニ至ル

司法部刑事第八〇六一號(大正十三年六月十四日)
司法部刑事局長

宮城刑務所長殿

勾留狀ノ效力ニ關シ期間計算ノ件回答

去月三十日附宮發甲第三〇〇號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件了承勾留ノ期間ハ被告人ヲ指定ノ刑務所ニ引致シタル時ヨリ起算スヘキモノナルコトハ從來通牒ノ通ニ有之候間勾留更新ノ決定アリタルトキハ右通牒ノ主旨ニ依リ前期間ヲ計算シ其滿了後更新期間ノ計算ヲ爲スヘキハ勿論ノ義ニ候條上申ノ場合ニ於テモ右様處理相成可然ト思料致候尤モ更新決定ニ於テ何月何日ヨリ勾留ヲ更新スト謂フカ如ク更新期間ノ起算日ヲ特ニ指示シタル場合ハ右決定ニ指定シタル日ヨリ更新期間ヲ起算致可然ト存候

七五

警保局警發乙第八一〇號(大正十三年六月九日)
內務省警保局長

司法部刑事局長殿

法人處罰ニ關スル件照會

刑事訴訟法ニ依レハ法人被告人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ヲ代表スルコトニ相成居候處當省及廳府縣ノ制定ニ係ル警察取締令中法人處罰ノ場合其ノ代表者ヲ以テ被告人ト爲スノ規定往々有之其ノ代表者ヲ被告人ト爲スハ警察事犯ニ付法人處罰ノ手續上審理又ハ言渡ヲ爲ス場合ニ於ケル責任者トシテ代表者ヲ被告人ト爲シタルモノニシテ前顯新刑事訴訟法ノ法人處罰ノ場合ニ於ケル規定ハ當然ニ違警罪即決例ヲ動カスコトナク警察署長若ハ其ノ代理者ニ於テ法人ヲ科料刑ニ處スルノ場合代表者ヲ被告人ト爲スハ警察取締令中改正ナキ限リハ其ノ明文ニ從ヒ從來ノ通りニ處理スヘキモノト思料

被致候得共一應御意見承知致度候

司法部
刑事局 刑事第八四六六號 (大正十三年六月十八日)
司法部 刑事局長

内務省警保局長殿

法人處罰ニ關スル照會ノ件回答

本月九日付警發乙第八一〇號ヲ以テ首題ノ件御照會ノ趣了承新刑事訴訟法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル規定ハ刑事訴訟法第三十六條ニ依リ改正セラレタルモノナルヲ以テ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ被告人トシ其ノ代表者ヲシテ訴訟行爲ヲ代表セシムヘキモノト思料致候

七六

京發第一七二二號 (大正十三年六月十七日)
(京都 刑務所長)

司法部刑事局長殿

勾留狀ノ期間起算點ニ付質疑ノ件

大正十三年六月七日警察署ニ於テ警察犯處罰令違反事件ニ付拘留十日ノ言渡ヲ受ケ確定ノ上同日ヨリ該刑執行六月十二日當所へ入所致候處六月十二日強盜被告事件ニ付公判裁判長ノ發シタル勾留狀ニ依リ同警察署ニ於テ之レヲ執行シタリ右ノ場合ニ於テ勾留狀ノ期間起算點ニ關シ左記二說アリ疑義有之候ニ付至急何分ノ御回示相賜度候

記

甲說

拘留刑滿了ノ日即チ大正十三年六月十六日迄ハ勾留狀ノ期間ヲ停止シ拘留刑滿了ノ翌日ヲ以テ期間ノ起算點トナス

乙說

拘留狀ヲ執行シタル日即チ大正十三年六月十二日ヲ以テ起算點トス

司法部
刑事局 刑事第八六〇四號 (大正十三年六月二十四日)
司法部 刑事局長

京都刑務所長殿

勾留状ノ期間起算點ニ付質疑ノ件回答

本月十七日京發第一七一二號ヲ以テ質疑ニ係ル首題ノ件了承右ハ貴問乙説ノ通思料致候條御了知相成度候

一七〇

七七

司法省行甲第九九〇號(大正十三年七月一日)
行刑局(司法省行刑局長)

檢事總長

檢事長

檢事正

刑務所長

少年刑務所長

御中

勞役場留置執行中罰金納付者釋放ノ件

別紙爲御參考差進候也

發日記第一四二二號(大正十三年四月二十一日)
山形地方裁判所檢事正)

司法省行刑局長殿

勞役場留置執行中罰金納付者釋放ノ件照會

勞役場留置執行中殘日數ニ對スル罰金納付ノ申出アリタル場合ハ明治四十二年十一月十七日民刑局長回答及大正三年二月十七日法務局長回答ノ通必ス次日以後ノ日數ニ相當スル罰金ヲ徵收シ申出ノ次日ニ之ヲ釋放スヘキヤ刑事訴訟法第五百四十六條ニ該當スル場合等ハ申出ノ當日之ヲ釋放シ其ノ當日ヲモ執行日數ト看做シ可然哉及御問合候也

司法省行甲第九九〇號(大正十三年七月一日)
行刑局(司法省行刑局長)

山形地方裁判所檢事正殿

一七一

勞役場留置執行中罰金納付者釋放ノ件回答

四月二十一日發日記第一四二二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處右ハ出場當日ノ分納額ヲモ徴收スルニアラサレハ即日出場セシムルコトヲ得サル義ニ有之尙刑事訴訟法第五百四十六條同法第五百六十五條ニ依リ勞役場留置ノ執行ヲ停止スル場合ニ於テハ明治四十三年十月民刑甲第七八號民刑局長通牒省議決定ニ準シ釋放當日ハ執行日數ト看做ササル義ト御了知相成度候

七八

刑進第一七六號(大正十三年七月十二日)
三(重)刑務所長

司法省刑務局長殿

上訴拋棄又ハ取下ニヨリ裁判確定シタル場合刑期計算方ノ件

刑務所ニ在ル被告人上訴權拋棄又ハ取下ヲ爲シ檢事ハ其翌日ニ於テ上訴權拋棄裁判確

定シタル場合ノ刑期計算方ニ付本年五月二十九日刑事第六五〇七號御通牒ニ基キ被告人ノ上訴權拋棄ノ日ヨリ起算スヘキモノトセルモノアリ又檢事ノ上訴權拋棄セル迄ハ未確定ナルヲ以テ檢事ノ上訴權拋棄シタル日ヲ以テ起算日トセルモノアリ右ハ何レヲ可トスヘキヤ御指示相成度

司法省 刑事第一〇五五二號(大正十三年七月十七日)
刑事局 司法省刑事局長

三重刑務所長殿

上訴拋棄又ハ取下ニ依リ裁判確定シタル場合刑期計算方ノ件回答

本月十二日附刑進第一七六號ヲ以テ質疑ニ係ル首題ノ件了承本年五月二十九日刑事第六五〇七號通牒ハ被告人ノ上訴權拋棄ニヨリテ裁判確定スヘキ場合ノミヲ指スモノニシテ檢事ニ上訴權アル場合ハ裁判未確定ノ場合ナレハ當然本通牒ニ包含セサル所ニ有之候條此段御了知相成度候

司法部刑事第一〇七六〇號(大正十三年七月二十一日)
司法部刑事局長(司法官省刑事局長)

大審院長

控訴院長

地方裁判所長

御中

別紙私訴費用豫納ニ關スル質疑ノ件

御參考ノ爲及通牒候也

(別紙)

訴訟費用ニ關スル件質疑回答(奈良地方裁判所長問合)
(司法省刑事局長回答)

問 左記疑義ニ亘リ候條一應貴局ノ御意見拜承致度及御問合候也

一 私訴費用ハ之ヲ豫納セシムヘキヤ

舊刑事訴訟法ニ於テハ此點ニ關スル何等ノ規定ナキ爲メ民事訴訟法ニ準シ豫納ヲ爲サシムヘシトノ説ト私訴ト雖モ其手續ハ刑事訴訟法ニ因ルヘキモノナレハ豫納セシムルヲ要セストノ説トアリ本省ニ於テモ兩様ノ回答(大正三年刑乙一一〇七號法務局長回答)(大正元年八月會監甲一二號會計課長回答)有之實際ノ取扱ハ區々ニ出テ一樣ナラサリシ如シ新刑事訴訟ニ關シテモ左ノ三説有之

甲説 私訴訴訟費用ハ全部之レヲ豫納セシムヘキモノナリ

新刑事訴訟法第五百七十二條ニ於テ私訴ノ訴訟費用ニ付テハ民事訴訟ノ規定ヲ準用スル旨明示セラレタルヲ以テ民事訴訟法第二百八十八條ニヨリ當事者ノ申請ニ係ル證據調費用ハ之ヲ豫納スヘキハ勿論私訴ハ便宜上刑事裁判所ニ於テ審判スルニ過キササルヲ以テ新刑事訴訟法第五百八十條第五百八十一條ノ送達並ニ呼出ノ費用ノ如キモ總テ之ヲ豫納セシムヘキモノナリ第五百七十二條ニ訴訟上ノ救助ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用スル趣旨ヨリ見ルモ何等疑ノ餘地ナシ

乙説 總テ豫納ヲ要セス

新刑事訴訟法第五百七十二條ノ規定ハ私訴費用ノ負擔ヲ定ムヘキ實體準則ヲ示シタルモノニシテ裁判確定後其負擔者ヲ定ムルニ付テノ準則ト見ルヘシ若シ甲説ノ如クセハ如何ニ必要ノ場合ニ於テモ費用豫納セサル爲メ其證據調ヲ爲スコト不能ニ歸スルカ如キ不都合ヲ生ス

丙説 當事者カ證據調ノ申請ヲ爲シタル場合ニ要スル費用ニ限り豫納セシムヘキモノトス

新刑事訴訟法ノ準用セントスル訴訟費用ニ付テノ規定ハ民事訴訟法第二百八十八條ノ規定存スルノミナルヲ以テ此場合ニ於テノ私訴費用ヲ豫納セシムヘシ其他ノ場合ハ豫納セシムヘキモノニアラス

答 乙説ノ通

八〇

司法省 行刑局 丙第一三四三號 (大正十三年七月二十六日)

檢事總長
檢事長
檢事正
御中

刑事訴訟法ニ關スル質疑回答ノ件

別紙爲御參考差進候也

(別紙)

鳥取地方裁判所 第八八二一號 (大正十三年六月二十七日)

鳥取地方裁判所 檢事正

司法省 行刑局長殿
未決勾留日數通算方ニ關スル質疑ノ件

被告ノ控訴ハ理由ナク檢事ノ附帶控訴理由アリシ場合ニ於ケル未決勾留日數通算ニ付
キ左ノ數說アリ疑義ヲ生シ候條至急何分ノ御回示相成度候也

第一說 刑事訴訟法第五百五十六條第一項一號ニ依リ檢事カ附帶控訴ノ申立ヲ爲シタ
ル以後ノ未決勾留日數ヲ本刑ニ通算スヘシ

第二說 刑事訴訟法第五百五十六條第一項一號ハ主タル上訴ニ付テ規定シタルモノニ
シテ附帶控訴ニ適用ナシ而シテ同條第一項二號ハ檢事ノ主タル上訴以外ノ一切ノ上
訴ヲ包含スヘキヲ以テ本問ノ場合モ亦之ニ該當シ被告控訴申立以後ノ未決勾留日數
全部ヲ本刑ニ通算スヘキモノナリ

第三說 刑事訴訟法第五百五十六條ハ主タル上訴ニ付キ規定シタルモノナレハ附帶控
訴ノ申立ハ同條未決勾留日數通算ニ關係ナシ

司法省
行刑局 行丙第一三四三號(大正十三年七月二十六日)
司法省 行刑局長)

鳥取地方裁判所檢事正殿

未決勾留日數通算方ニ關スル件回答

六月二十七日第八八二一號ヲ以テ標記ノ件照會相成候處檢事ニ非ル者ノ控訴ニ附帶シ
テ檢事カ控訴ヲ爲シタル事件ニ付實質ニ於テ原判決ト符合セサル判決ヲ言渡シタルト
キハ檢事ニ非サル者ノ控訴モ結局其ノ理由アルニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第五百五十
六條第一項第二號ニ則リ檢事ニ非サル者ノ上訴申立後ノ未決勾留日數全部ヲ本刑ニ通
算スヘキモノト思料致候

附 録

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ
指定等ニ關スル件

勅令第五百二十八號 大正十二年十二月二十八日

第一條 外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス
外務省ノ巡查ハ之ヲ司法警察吏トス

第二條 地方裁判所檢事局又ハ其ノ管内區裁判所檢事局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢
事正ノ指名シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法
第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務
ヲ行フ

第三條 監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八

條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第四條 左ニ掲クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一 帝室林野管理局ノ事務官、事務官補、屬、技師及技手

二 獵場監守長

三 監獄又ハ分監ノ長タラサル典獄、典獄補及看守長

四 林區署勤務ノ山林事務官、山林技師、山林副事務官、山林屬、山林技手及森林

主事

五 國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記

六 北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師並營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森

林主事

七 公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳產業技手

八 狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手

九 帝室林野管理局技手補

一〇 獵場監守

一一 看守

一二 國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記並國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員

一三 北海道廳河川監守

第五條 前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲クル罪ニ關スルモノニ限ル

一 前條第一號及第九號ニ掲クル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪

- 二 前條第二號及第十號ニ掲クル者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 三 前條第三號及第十一號ニ掲クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
- 四 前條第四號ニ掲クル者ニ在リテハ國有林野部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 五 前條第五號及第十二號ニ掲クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
- 六 前條第六號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 七 前條第七號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
- 八 前條第八號ニ掲クル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
- 九 前條第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪

第六條 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ司法警察吏ノ職務ハ町村吏員ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ

第七條 海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附 則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法警察職務規範

司法部 刑事第一〇〇九二號

司法警察官吏

司法警察職務規範別冊ノ通相定メ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ行フ

右訓令ス

大正十二年十二月

司法大臣 平 沼 騏 一 郎

司法警察職務規範

第一章 總則

第一條 司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フニハ法令ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外本規範ニ遵由スヘシ

第二條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク克ク其ノ精神ニ適

合セムコトヲ期スヘシ

第三條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ外議ニ動カサレス私情ニ泥マス専ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ

第四條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ慎ミ廉潔公正世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ

第五條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ攷究シ其ノ職責ヲ盡スニ遺憾ナキコトヲ期スヘシ

第六條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏活ニシテ機宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第七條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラス常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ

第八條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ害セサルコトニ注意スヘシ

第九條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ祕密ヲ嚴守シテ捜査ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第十條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協調ヲ保チ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ

第十一條 司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間ノ内外ヲ問ハス夜間又ハ休日ト雖之ヲ行フヘキモノトス

第十二條 司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ遲滞ナク處理スヘシ

第十三條 司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ不便ナルトキニ限リ管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十四條 書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用キス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第十五條 書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印シ其ノ所屬ノ官署ヲ表示スヘシ

文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ

第十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ錄取シタルトキハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

陳述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ趣旨ヲ記載スヘシ

書類ニハ陳述者ヲシテ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印セシムヘシ

第十七條 司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ虞アルトキハ回避スヘシ

第十八條 司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニ當リ被疑者其ノ他ノ關係者ノ求ア

ルトキハ官氏名ヲ表示シタル證票ヲ示スヘシ但シ警察官、憲兵ノ將校准士官下士、
巡查及憲兵卒制服ヲ着用スル場合ニ於テハ官氏名ヲ告クルヲ以テ足ル

第二章 捜査機關

第十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ捜査ノ事ニ膺ルヘシ

第二十條 警視總監、地方長官(東京府知事ヲ除ク)及憲兵司令官ノ捜査ノ權ハ異常ノ
場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ
第二十一條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ニシテ犯
罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ不便ナ
ル場合ニ於テ捜査ヲ爲スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ捜査ニ著手シタル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ捜査ヲ遂行
スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ屢スル被疑事件ヲ司法警察

官ニ先チ覺知シタルトキハ前條ノ場合ニ非スト雖速ニ捜査ニ着手シタル上司法警察
官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキハ之ニ讓リ且必要ナル援助
ヲ爲スヘシ

第二十三條 司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先チ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被
疑事件ヲ覺知シ第二十一條ノ場合ニ該當スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上
速ニ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ捜査ヲ委ネ且必要ナル援助ヲ爲
スヘシ

第二十四條 司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニ當リテハ其ノ事件職務ノ
範圍ニ屬スルヤ否ニ付慎重ナル注意ヲ爲スヘシ

第二十五條 通告處分ヲ認メタル犯則事件ニ付テハ當該官吏ノ告發アル迄ハ司法警察
官吏ハ其ノ捜査ヲ當該官吏ニ一任スヘシ但シ當該官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助

ヲ爲スヘシ

司法警察ノ職ニ在ル者前項ノ犯則事件アリト思料スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ當該官吏ニ通知スヘシ

第二十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ通常捜査ニ限り豫メ範圍又ハ條件ヲ定メテ之ヲ爲スヘキコトヲ命令スルコトヲ得

第二十七條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ直ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ豫メ捜査ノ命令アリタル場合ハ必要ナル捜査ヲ爲シタル上遲滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第二十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査其ノ他ノ職務ニ付補助ヲ要スルトキハ警察官ハ巡查ヲ使用シ憲兵ノ將校准士官下士ハ憲兵卒ヲ使用シ勅令ヲ以テ定メタル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ本來ノ職務ノ關係ニ於テ下僚タルヘキ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルヲ例トス但シ他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務

ヲ行フ者ヲ使用スルノ必要アルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十九條 司法警察ノ職ニ在ル者管轄區域外ニ於テ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ルヘク其ノ地ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ通知シ扞格齟齬ナキコトヲ期スヘシ

第三章 捜査ノ端緒

第三十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニハ現行犯、告訴、告發、自首其ノ他犯罪アリト思料スルニ至リタル原由ノ如何ニ拘ラサルモノトス

新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風説ト雖犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據アルコトヲ認メタルトキハ捜査ニ著手スヘシ

第三十一條 司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ掲クル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

- 一 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
- 二 死刑又ハ無期刑ニ該ル罪

- 三 軍機ニ關ルス重大ナル罪
- 四 高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
- 五 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
- 六 辯護士ノ犯シタル罪
- 七 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選舉ニ關スル罪
- 八 勞働爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪
- 九 治安警察法ニ違反スル重大ナル罪
- 一〇 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗壞亂ノ記事ニ關スル罪
- 一一 内外國ノ通貨偽造、變造及模造ニ關スル罪
- 一二 爆發物ニ關スル重大ナル罪
- 一三 公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪

- 一四 法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
 - 一五 無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ其ノ主義ニ關スル罪
 - 一六 各地方ニ連絡アル重大ナル罪
 - 一七 外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大ナル罪
 - 一八 公衆ノ耳目ヲ惹ク罪
 - 一九 檢事ヨリ特ニ報告ヲ命シタル罪
- 前項ニ掲クル犯罪ニ付告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪アリト思料スルト否トニ拘ラス速ニ檢事ニ報告スヘシ
- 第三十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滯ナク之ニ關スル書類及證據

物ヲ檢事ニ差出スヘシ

第三十三條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ告訴、告發其ノ他犯罪ノ申告ニ關スル書面ヲ差出シタルトキハ之ヲ受ケ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送付スヘシ

第三十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス之ヲ受理シ實ニ從テ處理スヘシ

第三十五條 委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシムヘシ告訴ノ取消ニ付亦同シ

本人又ハ委任ニ因ル代理人ニ非サル者ノ告訴ニ係ルトキハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

姦通ノ罪ノ告訴ニ付テハ婚姻ノ解消又ハ離婚ノ訴ノ提起ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

第三十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ要件ニ欠缺アルトキハ成ルヘク之ヲ補正セシムヘシ

第三十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參考ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメ之ヲ明ニスヘシ

第三十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴狀又ハ告發狀ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトキ又ハ本人ノ意志ニ適合セサルヘシト思料スルトキハ之カ取調ヲ爲シタル上本人ヲシテ補正ノ爲書面ヲ差出サシメ若ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第三十九條 犯人ヲ指名シタル告訴又ハ告發ニ付テハ誣罔ニ出ツルナキカ否及過實ノ申立ナキカ否ニ付特ニ注意スヘシ

第四十條 犯罪ニ關スル申告ヲ爲シタル者申告ヲ爲シタルカ爲後難ヲ畏ルルノ情況アルトキハ必要アル場合ノ外被疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告クルコトヲ避

クヘシ

第四十一條 告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク必要ナル搜查ヲ爲シタル上直ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付シ指揮ヲ請フヘシ但シ書類及證據物ヲ送付シタル後ニ於テ急速ヲ要スル事項ヲ生シタルトキハ檢事ノ指揮ナシト雖之カ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ニ付増減變更ノ申立ヲ受ケタルトキハ本人ヲシテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ又ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

前項ノ書面又ハ調書ハ之ヲ檢事ニ送付スヘシ

第四十三條 告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ他何等ノ事由アルモ之ヲ返付スヘカラス

第四十四條 告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受ケタルニ非サル司法警察官

又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ受理スヘシ

告訴又ハ告發ノ取消ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシ

第四十五條 第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第四十六條 自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲自ラ誣ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首出スル等ノ場合ナシトセサルヲ以テ其ノ虛實ニ注意スヘシ

第四十七條 司法警察ノ職ニ在ル者變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢事ノ指揮ナシト雖急速ヲ要スル搜查ヲ爲スヘシ但シ必要アル場合ノ外原狀ヲ變更セサルコトニ注意スヘシ
司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事ノ命令ニ因リ檢視又ハ檢證ヲ爲シタルトキハ

速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ但シ檢事ヨリ豫メ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトキハ檢證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ囑託ニ因リ檢視ヲ爲シシル場合ニ於テ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四章 捜査ノ實行

第一節 通則

第四十八條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ公訴ノ起否及遂行ノ資料ヲ蒐集保全シ竝犯人ノ所在ヲ韜晦スルコトヲ防クヲ目的トシテ捜査ノ事ニ膺ルヘシ

第四十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素犯罪ノ趨勢、犯罪ノ手段及罪證湮滅ノ方法其ノ他捜査ノ參考ト爲ルヘキ資料ヲ調査シ事案アルニ當リ措置ヲ誤ルコトナキヲ期スヘシ

第五十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アルト思料スルトキハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ捜査ニ著手スヘキモノトス但シ告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十一條 捜査ヲ爲スニハ巨惡ヲ逸セサルコトニ努メ苛察ニ涉ラサルコトヲ旨トスヘシ

第五十二條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 捜査ハ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被疑者其ノ他ノ關係者ノ煩累ヲ少カラシムルコトニ注意スヘシ

被疑者其ノ他ノ關係者ノ取調ハ成ルヘク夜間ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

第五十四條 捜査ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ隱微ヲ訐クコトナキヲ要ス

第五十五條 捜査ヲ爲スニ當リテハ濫ニ人心ヲ動搖セシメサルコトニ注意スヘシ

第五十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫ニ法律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キス暈メテ平易簡明ヲ旨トシ容易ニ問ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ

第五十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ穩和ヲ旨トシ其ノ年齢、境遇、性格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコトニ注意スヘシ

第五十八條 搜查ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付左ノ事項ヲ明ニスヘシ

- 一 氏名、年齢、職業、本籍、住居及ヒ出生地
- 二 性格、經歷、境遇及素行
- 三 犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ狀況及犯罪後ノ狀況
- 四 前科ノ有無若前科アルトキハ其ノ罪名、刑名、刑期、金額、裁判ヲ爲シタル應名及其ノ年月日
- 五 爵、位、勳、功、褒章、記章、恩給、年金ノ有無若之ヲ有スルトキハ其ノ種

類、等級

六 兵役ノ關係

第五十九條 搜查ヲ爲スニ當リテハ豫斷ヲ避ケ被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事情ヲモ明ニセムコトヲ努ムヘシ

第六十條 被疑者犯罪事實ヲ自白シタルトキト雖之ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ

第六十一條 共犯者ハ成ルヘク各別ニ之ヲ取調ヘ其ノ通謀ヲ防キ且附和雷同シテ陳述スルノ弊ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第六十二條 證據書類又ハ證據物ハ成ルヘク被疑者ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ但其ノ時機ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ

第六十三條 捜査中ノ事件ニ付新聞記事ノ掲載ヲ差止ムル必要アリト思料スルトキハ速ニ其ノ事情ヲ具シ檢事ニ申報スヘシ

第二節 通常捜査

第六十四條 捜査上必要アルトキハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意ノ出頭ヲ求メ又ハ其ノ所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ得

第六十五條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽キタルトキハ自ラ之ヲ錄取スヘシ
事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトキハ聽取書ヲ作ラスシテ任意書面ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十六條 被疑者其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ所有者、所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得證據ト爲ルコトアルヘシト思料スル物ニ付亦同シ

質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ニ依リ徵收シタル物ニシテ證據トシテ留置スルノ必要アリト思料スルモノハ同條ニ依ル還付處分前領置ヲ爲スヘシ

第六十七條 領置ヲ爲シタルトキハ件名、番號、品目、數量、被領置者ノ氏名、住所及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ件名、番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ

領置物ニ付所有者、所持者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 領置物ニ付テハ保存ニ注意シ盜難、紛失、滅失、毀棄、損壞、變質等ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

領置物ノ狀態ニシテ證據ト爲ルヘキ場合ニ於テハ其ノ狀態ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第六十九條 領置物ハ證據物又ハ沒收スヘキ物ニ非サルコト其ノ他留置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトキハ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ贓物ニ係ルトキハ差出人ノ承諾ヲ得テ被害者ニ還付スヘシ差出人

承諾セサルトキハ検事ノ指揮ヲ請フヘシ

領置物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求アルトキハ一時領置ヲ解クモ捜査ニ妨ナキ場合ニ限り假ニ之ヲ請求者ニ還付スルコトヲ得差出人ニ非サル者ノ請求ニ因リ假還付ヲ爲スニハ前項ノ手續ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ差出人ノ承諾ヲ得タルトキハ承諾書ヲ差出サシムヘシ

領置物ヲ還付シ又ハ假還付ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ領置書ニ記載シ且請書ヲ徴スヘシ

第七十條 犯所其ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

實況見分ニ著手シタル後検事ノ見分又ハ臨檢ヲ必要ト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ検事ニ報告シ自ラ見分ヲ結了シタルト否トヲ問ハス原狀ヲ保存シ置クヘシ

實況ヲ見聞シタルトキハ其ノ狀況ヲ録取スヘシ但シ引續キ検事見聞又ハ臨檢ヲ爲シ

検事ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

鑑定ハ官署又ハ公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得

第七十二條 鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

物ノ原形ヲ變シ又ハ數量ヲ著シク減損スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合

ニ於テハ検事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ検事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ捜査ノ參考

ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ但シ鑑定ノ手續ニ付干涉スルコトヲ得ス

第七十四條 鑑定ヲ爲サシメタルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

鑑定書ニシテ不明又ハ不備ノ點アルトキハ其ノ説明書ヲ提出セシメ鑑定書ニ添附スヘシ

第三節 強制捜査

第七十五條 刑事訴訟法第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場合ノ外捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條 強制ノ處分ヲナサムトスルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルヤ否ニ付慎重ノ考慮ヲ爲シ其ノ場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テモ特ニ其ノ必要アルトキノ外之ヲ爲スコトヲ避クヘシ

強制ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ嚴ニ必要ノ限度ヲ超エサルコトニ注意スヘシ

第七十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ關スル書類ハ自ラ之ヲ作ルヘシ

被疑者、證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ立會ヒタル司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ調書ノ末尾ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第七十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ付判事ノ強制處分ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ狀ヲ具シテ檢事ニ申報スヘシ

第七十九條 現行犯人ヲ逮捕スルニハ毆メテ穩當ノ方法ヲ用キ苛酷ニ涉ラサルコトニ注意スヘシ

現行犯人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衛ノ範圍ヲ踰ユルヘカラス

第八十條 常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サムトスルモノアルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第八十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ聽取リ逮捕調書ヲ

作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ徴シテ之ニ代フルコトヲ得

司法警察ノ職ニ在ル者常人ヨリ現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住所及逮捕ノ事由ノ要領ヲ記載シタル逮捕顛末書ヲ作成スヘシ

司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル現行犯人ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引致シタルトキハ速ニ逮捕顛末書ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ差出スヘシ

第八十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ其ノ犯罪親告罪ニシテ告訴ナキトキハ速ニ告訴權者ニ就キ告訴ヲ爲スヤ否ヲ確ムヘシ

第八十三條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第二百二十三條各號ノ場合ニ於テ勾引ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ
檢事ノ命令ニ因リ發スル勾引狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及命令ニ因リ之

ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第八十四條 被疑者ニ對スル訊問及被疑者ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ

第八十五條 證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ所持スルノ疑アル場合ト雖湮滅ノ虞アルトキノ外成ルヘク搜索ヲ爲サス本人ヲシテ之ヲ差出サシムヘシ

第八十六條 押收又ハ搜索ヲ爲スニハ成ルヘク其ノ範圍ヲ廣クセサルコトニ注意スヘシ

第八十七條 軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十八條 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セララルモノト認ムヘキ場所ノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ於テ物ヲ搜索スルノ必要アリト思料スルキトハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急迫ノ事情アリテ檢事ノ指揮ヲ待ツノ遑ナキトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ速ニ搜索ノ結果ヲ檢事

ニ報告スヘシ

第八十九條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物又ハ艦船ノ内ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スニ當リ住居主又ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ求アリタルトキハ搜查ニ妨ナキ限リ被疑事件ヲ告クヘシ

第九十條 押收又ハ搜索ハ特別ノ事情アル場合ノ外其ノ處分ヲ受クル者ノ業務ヲ妨ケ信用ヲ損シ其ノ他利益ヲ害スルコト多カルヘキ時刻ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ於テ日没前押收又ハ搜索ニ著手シ日没後其ノ處分ヲ繼續スル場合ニハ特ニ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ

第九十一條 刑事訴訟法第百五十六條各號ノ場所ニ於テ日出前、日没後押收又ハ搜索ヲ爲ス場合ニ於テモ成ルヘク住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ

シ同條第二號ノ場所ニ於テ公開時間内押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ公開時間外ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得但シ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ

第九十二條 押收又ハ搜索ヲ爲スニハ穩當ノ方法ヲ用キ濫ニ建造物、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セサルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十三條 押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押收ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作り假押收ノ調書及押收物ト共ニ檢事ニ送附シ且其ノ犯罪ノ搜查ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第九十四條 刑事訴訟法第百六十四條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲シ又ハ同法第百六十五條ニ依リ賣却處分ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル場

合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ檢事ニ報告スヘシ

第九十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ他ノ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押收ヲ爲シタルトキハ速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押收物ヲ送付スヘシ

刑事訴訟法第六十四條第二項ニ依リ看守又ハ保管ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ指揮又ハ承諾ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同法第六十五條ニ依ル賣却處分ヲ爲スノ必要アリト思料シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ其ノ處分ニ委ヌヘシ

第九十六條 第六十七條乃至第六十九條ノ規定ハ本節ノ押收ニ付之ヲ準用ス

第九十七條 檢證ノ處分ニ因リ原狀ヲ變更シタルトキハ成ルヘク舊態ニ復スヘシ

死體ノ解剖、墳墓ノ發掘又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トスルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ檢事ノ命令ニ因リ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ檢證スル場合ニ於テ解剖ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スヘシ

第九十八條 證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實驗ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避クヘシ

第九十九條 證人ヲ被疑者又ハ他ノ證人ト對質セシムルニハ其ノ時機ニ注意シ且兩者間ノ關係ヲ顧慮シテ適當ナル發問ヲ爲シ眞實ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ努ムヘシ

第一百條 證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ

第一百一條 證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命ヌヘキ處分ヲ裁判所ニ請求スルニハ其

ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘシ

第百二條 鑑定ニ付死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トシテ鑑定人ヨリ其ノ許可ヲ求メタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限りニ在ラス

死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ鑑定人ト共ニ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘタ之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘシ

第百三條 第七十一條乃至第七十四條及第百一條ノ規定ハ本節ノ鑑定ニ付之ヲ準用ス

第五章 令狀ノ執行

第百四條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキ又ハ執行

ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令若ハ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因リ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ハ指揮ヲ受ケタル當該司法警察ノ職ニ在ル者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第百六條 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者管轄區域外ニ在ルトキハ其ノ地ヲ管轄スル司法警察官ニ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若ハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

執行ノ求ヲ受ケタル司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタル場合ト同シク執行ノ手續

ヲ爲シ之ニ關スル書類ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ差出スヘシ

第一百七條 司法警察官命令若ハ囑託ニ因リ發シタル勾引狀又ハ命令ニ因リ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出スヘシ

司法警察官出頭義務ヲ履行セサル證人ニ對シ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ調書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第一項ノ勾引狀又ハ逮捕狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ之ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ送付スヘシ若參考ト爲ルヘキ事項アルトキハ同時ニ報告スヘシ

第一百八條 勾留狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用キ必要ノ限度ヲ超エテ強制ヲ加ヘス且他人ヲシテ執行ヲ受ケタル者ナルコトヲ覺知セシメサルコトニ注意スヘシ

第一百九條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ搜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス

其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得

第一百十條 命令狀ニ因リ押收又ハ搜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押收又ハ搜索ノ手續ノ顛末及參考トナルヘキ事項ヲ調書ニ記載シ命令狀ト共ニ送付スヘシ

第六章 捜査事件ノ處理

第一百一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付捜査ヲ終ヘタルトキハ捜査ノ端緒如何ヲ問ハス速ニ檢事ニ送致スヘシ但シ即決スヘキ事件ニシテ告訴、告發又ハ自首ニ係ラサルモノニ付テハ此ノ限りニ在ラス

被疑事件ヲ檢事ニ送致スルトキハ意見ヲ付シ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ捜査書類及差押ヘ又ハ領置シタル物ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第十二條 檢事ヨリ微罪トシテ豫メ指定シタル事件罪ト爲ラサルコト又ハ犯罪ノ嫌疑ナキコト明ナルニ至リタルトキハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要セス

第十三條 犯罪事實極メテ輕微ニシテ處罰ノ必要ナキコト明白ナルトキハ事件ヲ檢事ニ送致セスシテ微罪處分ヲ爲スコトヲ得

微罪處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ニ報告スヘシ

第十四條 告訴、告發若ハ自首ニ係ル事件又ハ檢事ノ送致ヲ命シタル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第十五條 被疑事件ノ送致後ト雖常ニ其ノ事件ニ注意シ參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第十六條 被疑事件通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルコト明ナルニ至リタルトキハ事件ヲ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事件告訴、告發若ハ自首ニ係ルモノナルトキ又ハ第三十一條

ニ依リ報告シタルモノナルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七章 少年ニ關スル特則

第十七條 少年ノ事件ニ付テハ保護教養ヲ主トスルノ精神ヲ以テ事ニ膺ルヘシ

第十八條 少年ノ被疑者ヲ取調フルニ當リテハ特ニ他人ノ耳目ニ觸レサルコトニ注意スヘシ

第十九條 少年ノ被疑者ハ他ノ被疑者ト分離シ接觸セシメサルコトニ注意スヘシ

第二十條 少年ノ被疑者ハ已ムコトヲ得サル場合ノ外拘束スヘカラス

第二十一條 少年ヲ逮捕シ又ハ引致スル場合ニ於テハ其ノ方法及強制ヲ加フル限度ニ付特ニ慎重ノ注意ヲ爲スヘシ

第二十二條 少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ犯罪事實輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思料スル場合ト雖微罪處分ヲ爲サスシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

第二十三條 少年ニ對スル刑事事件ハ搜查又ハ豫審ニ關スルモノノミナラス公判ニ

付セラレタル事項ト雖特ニ祕密ヲ嚴守スヘシ少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項亦同シ

第八章 外國人ニ關スル特則

第二百二十四條 外國人ニ關シ司法警察ノ職務ヲ行フニ當リテハ國際法及國際上ノ慣例ニ違背セサルコトニ注意スヘシ

第二百五條 外交官ノ特權ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ特權ヲ害スルノ虞アル行爲ヲ爲ササルコトニ注意スヘシ外交官ノ特權ヲ有スル者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第二百六條 大公使館、大公使ノ居宅、別莊又ハ其ノ宿泊スル場所ニ於テハ搜查其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第二百七條 重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ掲クル場所ニ入りタル場合ニ於テ猶豫スヘカラサルトキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ搜查

ヲ爲スコトヲ得

第二百八條 重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二百九條 外國軍艦ニ屬スル軍人、進軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國內ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三百十條 任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對スル被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急速ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得ス但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百十一條 帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得ス

前項ノ領事館ノ事務所又ハ居宅ニ於テ捜査其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト思料ス
トキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル處分ハ此ノ限リニ在ラス

第三百二十二條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察
ノ職務ヲ行フヘシ

- 一 帝國ノ陸上又ハ港内ノ安寧秩序ヲ害スルトキ
- 二 乗組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ掲クル場合ノ外特ニ捜査ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ
請フヘシ

第三百二十三條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直
ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三百二十四條 外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムトスル場合ニ於
テ國語ニ通セサルトキハ成ルヘク通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作成シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシ
テ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

第三百二十五條 外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提
出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシムヘシ
譯文ニハ譯者ヲシテ其ノ住居及職業ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第三百二十六條 被疑者外國人ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲモ明ニスヘシ

- 一 國籍
- 二 帝國ニ來リタル時期及目的
- 三 本國ヲ去リタル時期
- 四 外國ニ於テノ受刑ノ有無
- 五 家族ノ有無及其ノ住居

第三百二十七條 被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セサルトキハ通事ヲ用キ

テ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人其ノ必要トスル事項ヲ記載セムコトヲ求メタルトキハ之ヲ調書ノ末尾ニ記載セシムヘシ

第三百二十八條 外國ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三百二十九條 外國人ニ對シテ發スル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添附スヘシ

第四百十條 外國人ニ對シ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ル

ヘク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第四百十一條 外國人ニ對シ押收調書若ハ押收目錄ノ謄本若ハ抄本又ハ領置ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添附スヘシ

第四百十二條 外國艦船乗組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四百十三條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目錄ヲ作り本人ト共ニ檢事ニ引渡スヘシ

(備考)

本規範ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

司法警察官吏又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ニ
交付スヘキ證票ノ件

司法省刑事第七一六號

檢事正

司法警察官吏又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ニ交付スヘキ證票左ノ通相定ム
右訓令ス

大正十三年一月十九日

司法大臣

第一條 檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル司法警察官吏又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行
フ者ニ對シ左記様式ニ依ル證票ヲ交付スヘシ

第二條 證票ハ豎三寸横二寸トナシ強靱ナル厚紙ヲ用フヘシ

第三條 證票ニハ檢事局ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四條 檢事局ハ證票交付簿ヲ備ヘ證票ノ番號、交付ノ年月日及交付ヲ受ケタル者ノ
官職氏名ヲ記載スヘシ

第 號	官 職	氏 名
司 法 警 察 官 ノ 證		
年 月 日		

備考 司法警察吏、司法警察官ノ職務ヲ行フ者又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ者ニ付テハ夫々司法警察吏ノ
證、司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ證又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ者ノ證ト記載スルコト

判事ノ強制處分又ハ檢事若ハ檢事ノ命令ニ依リ
司法警察官及司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ召喚
シタル證人鑑定人通事等ニ支給スル旅費日當及
止宿料等ニ關スル件

司法省令第十一號(大正十三年
五月二十九日)

第一條 左ニ掲クル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與スルコト
ヲ得

- 一 刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ檢事ノ請求シタル強制處分ニ付豫審判
事又ハ區裁判所判事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人
- 二 刑事訴訟法第二百四條第一項第二百二十八條又ハ第二百三十六條ノ規定ニ依
リ檢事又ハ檢事ノ命令ヲ受ケ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證

人、鑑定人、通事又ハ翻譯人

三 犯罪捜査ニ付檢事ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者

第二條 鑑定、通譯又ハ翻譯ニ付數多ノ時間、特別ノ技能又ハ費用ヲ要スルトキハ日
當ノ外相當金額ヲ給與スルコトヲ得

第三條 刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ハ前二條ニ掲クル給
與ノ金額ニ付之ヲ準用ス

前記ノ金額ハ第一條第一號ノ場合ニ在リテハ豫審判事又ハ區裁判所判事第二號、第
三號ノ場合ニ在リテハ檢事之ヲ定ム

附 則

大正十年司法省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

大正十三年九月二十日印刷
大正十三年九月二十三日發行

定價金一圓五十錢

編纂者 大 原 昇

東京市神田區今川小路二丁目四番地

發行者 印刷者 葉多野太兵衛

印刷所 清水書店印刷部

不許
複製

東京市神田區今川小路二丁目四番地

電話九段五七七、五七八

振替東京七四四七

發行所 清水書店

335
42

終